愛國婦人

愛國婦人會機關（愛國婦人會の目的は軍人の遺族及び癈兵を救護するにあり）

本號附錄（本號には總裁宮妃殿下並に名譽會員各宮妃殿下の御肖像を附錄とす）

第壹百號

「愛國婦人」は本號を以て正に一百號に達せり、本紙が呱々の聲を揚げてより茲に四年、諺にも三年經てば三ッになるといへり、其初刊當時の本紙と今日のそれとを比ぶれば、何人も其進歩を認むるに躊躇せざるべし、これ唯記者の贔負目にあらず、事實を云ふのみ。我等は讀者が我等の菲才を棄てず、本紙を愛讀し、本紙を購讀せられたるの同情と厚意とに向て、滿腔の感謝を讀者に致すを禁ずる能はず。四年位の年月は時と所によりては何でもなきものなり、支那や朝鮮にては四年は愚か十年が百年でも、別に見違へるほどのことはなく、不相變の支那朝鮮なれども、日本は一年て大違ひ、四年前と今日の日本を較ぶれば、間に日露戰爭といふものを入れて、全で別の國のやうになりたり、其進み方の素晴さは、何處にも眞似の仕樣なく、本紙が進みたりとて、ながくこれにて滿足すべき次第にあらず、有體に言はゞ、我等はあらゆる日本の婦人雜誌、婦人新聞中、最も信用あり、最も勢力あり、從てまた最も責任あるものとして、如何にせば本紙が日本の進運と平行して、日本の婦人を指導し、啓發し、稗益するを得るかに就て、夙夜に焦心努力しつゝあるなり。「此方針を以て進む、故に本紙は上品なり、何處の家庭、如何なる人の前にて朗讀するも不體裁を感ぜず。甚だ地味なり、輕佻浮華は人に媚ぶるの方便ならんも、深切なる者の忍ぶ所にあらず。頗ぶる堅實なり、永久の價値は浮薄なるものに存せざればなり、極めて實用的なり、直に以て家庭、社會の實際に應用するを得べし、而して之を總ぶるに始終一貫の高き道徳と精神を以てす。以上は本紙の從來執り來りたる方針にして、其百號を祝するに當り、更に之を將來に向て宣言するの、必ずしも無用にあらざるを信ず。」愛國婦人會は日露の戰爭と日本婦人の旺盛なる同情心の結果、近く二年間に於て其設立の當時設立者を始め、何人も豫想し夢想せざる、日本に於ては古往今來匹儔なく、世界に於ても類例少き一大婦人會となりたり、五十萬の會員を有する婦人會が日本にあることゝなりたり、盛なりとは斯る現象を形容する言葉なり。然れども會は決して從來の成績を以て滿足すべきものにあらず、今後こそは會の働き時、言ひ換ふれば働くべき特權と責任を有するの時なり、それには會の今日の規模にては未だ充分といふべからず、會員の五十萬は近き將來に於て百萬にも二百萬にもなし、遂には成年の日本婦人は悉く會員とする位の勢にて、大に會員の增加を謀り、延ひて以て會の事業の擴張を行はざるべからず、會の事業とは言ふまでもなく、軍人の遺族及び癈兵を救護することなり、これ會の正面の目的なり、而して尙其副目的としては、學校以外に於て日本の婦人を社會的に敎育し、日本の家庭を改良進歩せしむるの仕事在り、こは會の正面の目的にはあらざるも、婦人社會の幹部に立てる者、家庭の主婦たる者、及び將來此等の者となるべき婦人より成れる本會の性質上、其事業が其邊まで手を伸ばさゞるべからざるは當然のことにして、本會にして始めて之を能くすべき、大切にして有益なる副事業なり。我等は是の如くに會を觀、將來の會の事業を豫想して、從來會に盡したるの同じ精神を以て、今後も亦會の爲に微力を竭さんと欲するものなり。「尙終りに一言したきは、一昨年末まで僅か五六千の發行高なりし本紙が、今日數萬を出すに至りしのみならず、毎號八頁を出でざりしものが、平均十四頁たらざるを得ざるに至りし所以のものは、唯之を愛國婦人會の機關たるに歸する人あらんも、實は決して然らず、本紙は創刊の際より愛國婦人會とは全く會計を別にし、一厘の補助をも會より受けたることなく、全く獨立自營せるものなれば、會員に購讀を強ゐたることなく、而して是の如き多數の愛讀者を有する所以は、本紙そのものに何處か見るべきものありて、見ざるを得ざりしが故なりとするは、あながち我等の買ひ被りにあらざるを信ず、即ち本紙は今後とても何處までも、獨立自營にして、從來の精神を以て進行せんと欲す、思ふに讀者も從來の同情を以て本紙を待ち、一人は二人、二人は四人と本紙を普ねく婦人に紹介せられ、日本の家庭といふ家庭、婦人といふ婦人が悉く此新聞を備へ、讀み、讀みたるとは實行し、以て「愛國婦人」の期望を充分に實現するに至らしめられんことを。これ「愛國婦人」の爲めに之を云ふにあらず、實に會のため、國家の爲なり。今や本紙百號を發行するに當り、從來の經過と今日の實況と將來の期望とを述て、祝辭に代へ、併せて讀者の健康を祈ると云爾。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人の位置と商業家の位置

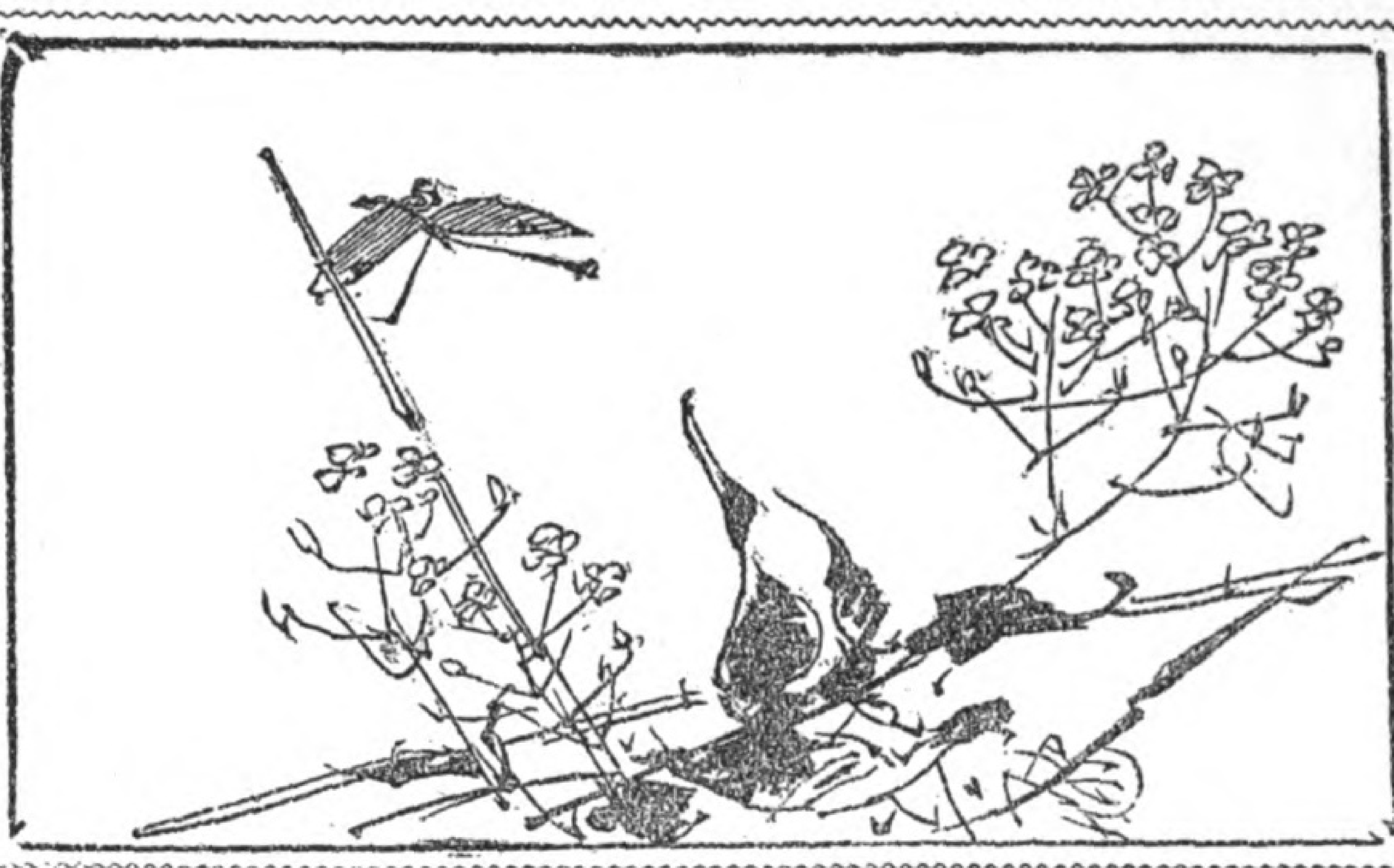
本會顧問 男爵 澁澤榮一

▲位置相似たり 婦人の位置と商人の位置とを比較して見るのは頗る興味のあることでありますが、私の見る所では此兩者の位置が甚だ善く似て居ると思ます、維新以前までは共に社會上の位置は皆無と申してもよい程でありましたが、維新後になつて段々と地歩を占むるに至りました、併し兩者の内何れが今日進歩しつゝあるかと申すと、商人の方が一歩だけ進んで居るかと思ひます、商業の大切なることを社會一般に奬勵し出したのは明治五六年頃からであつて、其後何等の挫折なくして今日まで進んで參りましたが、女子問題の起りましたのは明治十七年頃でありました、其頃今の虎の門女學館の處に女子敎育奬勵會と云ふものが出來まして、女子敎育を盛んにせねばならぬことを主張し、其時代に又上流社會には外國との交際上婦人の交際と云ふことを主張し、舞踏會を行ふ等種々破天荒のことを致しました、其結果社會の潮流に反した爲めに非常な反動を起し一時挫折しましたが、明治三十五年此方再び女子敎育の勃興を來たし、婦人社會の活動をも見るに至りましたが、婦人に取つては今日が過渡の時代でありますから、此時代に遭遇したる婦人は最も注意しなくてはなりません、左に婦人と商人との古來の沿革を對比して婦人の覺悟に論及しやうと思ひます。

▲古代の婦人 ずつと以前のことは暫く置き、王朝時代は婦人の位置が最も高く、紫式部、和泉式部等の名媛才女を出し、日本の文化史を飾るに足るべき人々が輩出し、婦人の爲には全盛時代でありましたが、降て武門政治の時代になりましては、婦人の位地は極めて低い者となりました、是は主に社會が武力を貴び武を以て世を治めたる結果、纖弱なる婦人の力は男子に抵抗することが出來ず、且一家の財力は男子に依て供給を仰ぐの結果婦人は恰も奴隷の如く取扱はれ、社會上何等の位置を保つことが出來なくなつたのみならず、儒敎主義の敎育が行はれた爲に貝原益軒の女子大學の如き敎訓が一般に行はれ、武士的家庭では婦人は成るべく隅の隅に押し籠て、只々溫厚に謙讓に主人に向つて意見を陳ぶるとさへ出來ず、默つて世を送ればそれてよいと云ふが如き風に仕立て、以て明治維新に及んだのである。

▲古代の商人 婦人は王朝時代に於て一時隆盛の位置を占めたことがありますが、商人は昔よりして相當な位置に置かれた時代は一つもない、德川家康の政治の頃には多少外國貿易をも奬勵し、商人にも相當の識見を持つた者も居つたやうでありますが、其後宗敎の關係よりして鎖國主義となり、海運業を杜絕せしめ、外國貿易は一切行はれぬこととなり、只内國の物産を大阪に集め、政府の役人が商人に命じて相當な利潤を得て販賣せしめ、是れに依つて徵稅する位ゐのものであつて、この命を受けた商人共が幾分か社會上の位置を得、又智識もあつたのてある、それでも只帶刀御免と云ふことを名譽にするほどて、夫れ以下の商人は武士の爲めには皆切捨御免の下に危き生活を爲さねばならぬ運命であつた、從つて商人には學力も要らず、識見もない、其時代に若も商人て學力あり識見があると、却つて世に相容られず、役に立たぬものと卑下されてしまふ有樣てあつた。

▲今日の婦人 社會の一員として婦人も又人てある、人としての敎育を受け、人としての働きを爲し、人としての權利を得べきものである、社會は男女の共同に依つて成るものであるから、男子ばかり高等なる敎育を受け、女子が是れに釣合ふ敎育を受けぬ時は、社會の平衡を得ないと云ふ一般の輿論よりして婦人の敎育が盛んになり、又主婦となつても單に一生家の内にばかり引込んで、所謂昔の



お姐さんになつて了つたのでは、何んの役にも立たない、出る處へはずんずん出て、社會のとにも盡される丈け盡して、始めて婦人の本分を完うしたものと云ふべきてある、婦人の社會上の働きが擴まり、社會から婦人も甚だ役に立つものであると思はるゝやうになつて、始めて婦人の位置も高まつて來るのてある。

▲今日の商人 昔の商人と異なつて今日の商人は學問もなくてはならぬ、智識もなくてはならぬ、世界の人を相手の商買であるから、只内國ばかりを善く治めて行つたり、内國の秩序を維持したりして行く仕事とは異なり、國家の發展を世界の上に及す可き重大なる役目を持つて居るのてある、故に國務大臣が政治なる職務を執るも、銀行の頭取が其職務を良く盡すも、等しく國家の爲めに盡すのてあつて、其巾も長さも格別廣い短いと云ふ差はない筈てある、然るに封建制度の餘波を受けて、商人の位置は社會上低きに置かれ、假令ば勳章の如きても政治家軍人等になれば非常な名譽なる勳章を帶び、役人なれば一省の局長位でも勳三等を貰つて居るが、此澁澤も勳三等てある、是れすら稀なる特典て、日本の商人て勳章を貰ふなどと云ふ人は尠いのてある、商人が自己の職務に忠實なるは、取りも直さず國家の爲めに働くのてあるが、社會からはさうは見ないて、自己の利を增進するかの如く認められ、從つて社會の位置も甚だ揚らぬのてある。

▲商人の覺悟 今日の商人は昔と異なつて、世の中で一番智識もあり學問の道にも勝れたる者でなくては、商人たることが六ヶ敷いと同時に、商人たるの資格には先づ以て相當の資産を有し、而して着實に、而して敏捷に、而して自己の金庫の中には苟も不正と世の中から云はるゝ金を貯へぬやう、己れの職務に忠實なるは則ち國家の爲めに計つて忠實であると云ふ此覺悟と決心とを以て商業に從事して、漸次に自己の地位を進めて往くことが必要であつて、如何なる金でも儲かりさへすればそれて商人の本分を盡せりと思ふが如きことてはいけない。

▲婦人の覺悟 前に申した如く、婦人の位置は今日變遷の時代に遭遇して居りますから、此時代を善く過して往くと云ふことは今日の婦人自身の爲のみならず、將來の婦人の爲めにも甚だ必要なことであつて、此時代の婦人が一番働きに骨が折れる、何故なれば女子敎育の如きでも、婦人にも是非敎育が必要ではあるが、餘り極端に走り過ぎて世の風潮なり慣習なりに相伴はぬ婦人が出來て、敎育をさしたが爲めに斯くの如く生意氣になつたとか、社會の風儀が亂れて來たとか云ふ風に、社會の甚だしき攻擊を受くるやうになつた時は、敎育其物が惡いかの如く見なされ、折角勃興しかけた敎育も又挫折するが如きことにならんとも計られぬ、故に其中庸を得て往くことが甚だ大切てある、又婦人の社交に於てもさうてある、修養もなき婦人て外へ出て跳ね廻はり喋舌り散らすやうのものが若しあつたとしたならば何うてあらう、他の婦人は是れあるが爲めに折角交際界に出ても、斯樣な有樣てはと云ふので交際場裡に出ることを見合はせるやうになる、さらばと云ふて昔風に人の前ては物を言はず、何事も語らず始終沈默を守つて居るやうな人が若し社交界にあつたならば何うてあらう、智識が無いから語ることも出來ないのてあると云ふので、他人より賤めらるゝが如きことがあるてあらう、總て此過渡時代は事に當つての寸尺を計ることが六ヶ敷いので、慣例なき寸尺を自ら作り出さねばならぬのてありますから、婦人の身に取つても又難哉と云はねばなりません、故に今日ては女子敎育と云ひ、女子の社交と云ひ、段々盛んになり、婦人の地位も從つて高まりつゝある時代てありますから、社會の風潮に反して乘かけた船の覆へらぬやう、順風に帆かけて彼岸に達せられんことを希望します。

▲愛國婦人を賞與とす

長崎縣北松浦郡平戸村 幹事 浦とき子殿

は愛國婦人會の爲め非常に盡力し其の功績尠なからざるに付き之れに酬ゆるため今回同郡幹事部にては當第百號より一ヶ年間吾が「愛國婦人」を同氏に贈呈することゝなせり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

體育と大和魂（下）

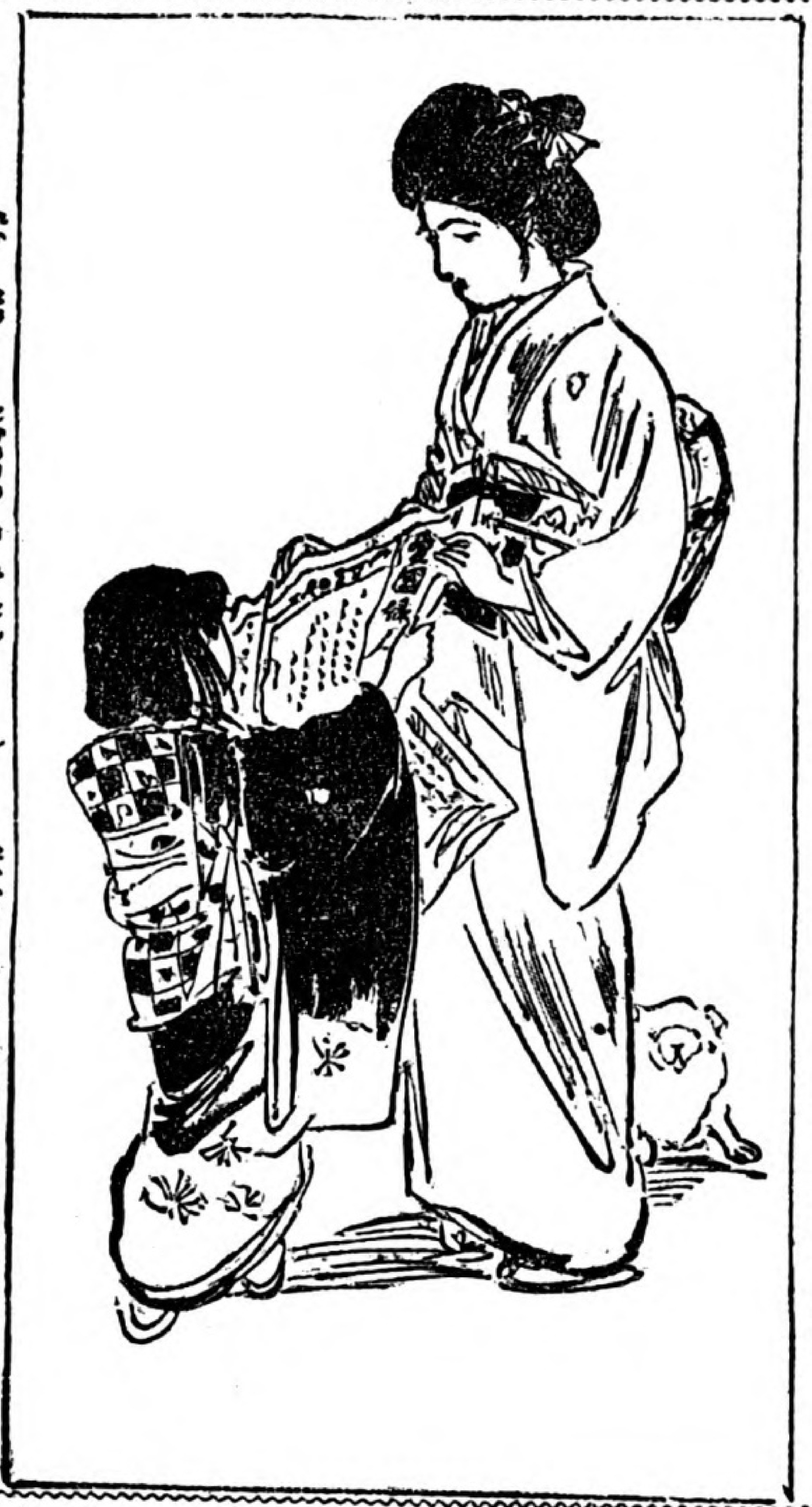
女子高等師範學校敎授　井口あくり

▲婦人の神經　婦人は男子と違つて神經の作用か何にかて、何うしても愉快な氣を長く續け得ぬ傾きがありますが、是れは運動の不足から血液の循環を惡くするとか、又は家內にばかり籠つて居て新鮮な空氣を吸ふことが充分でない爲めに、自然に健康を損じて來た結果で、生理作用に基くことが多いのであります、故に婦人の體育を奬勵して、人生の幸福を一般に享けるやうにしたいと思ふ。

▲主婦と體育　一家の主婦に對して體育の必要を說くは、今の日本社會では少しく異樣の感がありませうが、元來主婦は舅、姑に仕へて家政を整理し、子女を敎育する重大なる責任のあるものでありますから、身體が健康でなくてはなりません、常に病氣に侵され易く、度々醫者よ藥よと騷ぐやうなことでは、迚もこの責任を滿足に盡くすことは出來ません、夫れのみならず是れが爲めに一家は活氣を失ひ、家庭に於ける樂しみは消滅されて仕舞ひ、軟弱なる體格が子孫に遺傳するやうになり、將來健全なる國民を作ることが出來ないやうになります、斯かる弊風は我が國中流以上の婦人に多いやうでありますが、是れは國家の爲め甚だ惜しむべきことであると思ひます、故に私は敢てこゝに主婦に體育の必要であることを說くのであります。

▲婦人と社會　殊に近來は社會各種の事業が婦人の盡力を渴望して居る場合てありますから、婦人が唯だ家居にのみ甘んぜず、進んで家政を掌るの傍ら公共事業やら慈善事業に盡力すると云ふことは、社會の爲めは勿論のこと、自己一身に取りても誠に興味あることてあります、而して斯かる事は重に中流以上の位地にある婦人の爲すべき責任でありますから、主婦たるものは常に健康であらねばなりません、健康を保つには是非とも體育に注意するの必要があります、是れを怠るに於ては主婦たる責任を盡したものとは云へません。

▲腦力と體力　こゝに至りますと、西洋婦人は能く體育と云ふことに注意して居ります、一例を申せば上流の貴婦人でも一日に一度は必ず新鮮な空氣を吸ふが爲めに、公園または野外へ散策に出掛けます、さうして或時は自ら馬を御して馬車に乘ることもあり、また家人と共に出掛けることもありますが、要するに體育と云ふことを忽緒にいたしません、尙ほ子供の體育に就ては非常に注意します爲め腦力と體力とが平均して居ります、故に至難な事業や學術の硏究をしても必ず成功いたすのであります。



▲戶外の運動　斯くの如く體育は智育德育と共に甚だ必要なことであるにもかゝはらず、日本の家庭では其の子女を敎育するに當つて讀書や、茶道や、活花や、琴曲の類ひは母親が一生懸命に注意して學ばせますが、戶外の遊戲は更らに奬勵しないと云つても宜い傾きがあります、是れは敎育上の一缺點であつて偉大なる國民の母たる資格を養成すると云ふ觀念の不足に基くことゝ思ひます。

▲根本と枝葉　要するに女子は家庭の爲め、社會の爲め、國家の爲め、是非健康を保たねばなりませんから、體育は他の諸學藝と共に少しも怠ることの出來ぬものであります、故に世の女子を敎育する人々は能く其の根本を忘れて枝葉に亘らず、體育も智育德育と共に發達進步して完成するやうにして頂きたい、是れ軈て世界の人が嘆賞する彼の大和魂となるのであります。

役に立つ婦人

幹事　渡邊げん子

▲理想の婦人　世の中の進步するに從つて理想とする婦人の標準も昔と今とは少しく趣が違つて來たかと思ひます、然らば今日の理想婦人としては如何なる婦人が最上かと云ふに、私が朧氣ながら常に考へて居ります所では、兎に角役に立つ所の婦人てあらねばならぬと思ひます。

▲役に立つ人　上中流社會の婦人方にして、敎育事業や社會事業に盡力し、婦人社會に於て一の標準とならるゝ人は、何れも役に立つ所の人のみであります、而して此ゝる方々は種々なる方面に仕事の多いにも係はらず、家政の整理、子息令孃の方の敎育等凡てに行き屆いて居られます、是に依て見ますると即ち外て役に立つ人は內でも役に立つ人であります。

▲婦人の缺點　斯く婦人社會に大なる影響が來ました今日は、女子も各々自己の立場を定むる必要があるかと思ひます、例へば何會に限らず其會の會員となつて出ましたからは、假令立派な意見を有つて居なくとも、言はねばならぬ時は分相應に其意見を陳る位ゐてありませんと、主婦としてもまた充分に責任を盡くし得る人とは云へません、私が種々な婦人の團體に出入りして見まするに、矢張默すとか引ッ込むとかの方が多いため、相談事が一度で纏まりにくいのであります、斯樣に一致が出來ませんから、團體としての勢力が常に不足なのであります。

▲婦人と國風　一國の氣風は女子の氣風に準すると云ひますが、實際それに違ひありません、亞米利加婦人は活潑で常識に富み、英國婦人は保守的で堅固な性格を備へ、佛蘭西の婦人は感情的で華美で永遠の大計に乏しい、斯かることが皆國風になつて現はれて居りますから、日本婦人も固有の美點を發揮すると同時に海外の長所をも取つて、時勢に後れぬやう今少し役に立つ婦人の多くならんことを望みます、さうしたならば家庭の幸福社會の進步を一層增進さすることが出來るだらうと思ひます。

▲人物の修養　以上申しました私の役に立つ婦人と申しますのは、敎育のあるなし、位地の高下を以て定むるのではありません、假令九尺二間の長屋住居をしましても、一家の主婦と云ふ以上は自分の權利と義務とを辨へ、分を守つて生活をすると云ふことてあります、多く學識を備へ徒らに理想のみ高くても、此れを實地に應用することが出來ず、家事の整理や世の中のことに暗い樣ですと、決して役に立つ婦人とは云へません、要するに役に立つ人とは、人物の修養に重きを置くのでありまして、時に臨み相當に事物を處置し得る人を云ふのであります。

十分談片（其一）

◎伯爵柳澤保惠氏　私は此程英國で開かれた萬國統計學會議に臨席して歸りましたが、同會議で著しく自分の感じましたことは、英國が日本に對する好意であります、該會議に列席した國は十三ケ國で、其中には大臣待遇を受ける人もあり、名高き博士なども數多く寄り集つて居たのでありますが、其會議の席で自分は列國中の首席の地位を占むる光榮を得ました、是れ全く同盟國たる日本の代表者であるからと云ふので、斯の如き特別の待遇を與へて呉れたものと思ひます、又第二に感じたる事は萬綠叢中紅一點とでも申さうか、此會議のうちに一人の婦人が列席して居ることであります、此婦人は露西亞の人てありまして數年前開いた第七回の統計學大會の節にも臨席して居つたのを見受けましたが、此度も又統計協會の招きに應じて臨席したのであります、此婦人は語學が達者で英佛獨露の四ケ國語を巧みに操り、露國の統計局でも通辯の勞も執つて居るさうでありますが、統計學も深く學んで居つて、郵便貯金の統計等について專ら調べて居るやうであります、兎に角婦人にして斯る學會へ臨席するは大なる名譽であると共に統計學の如き緻密なる學問は婦人に適當したと思ひますから日本婦人にも追々斯學の硏究者の出んことを望みます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自分の樂より他人の樂

評議員　仁尾繁子

▲家庭の主宰者　家庭は云ふまでもなく人生の樂園また安息所でありまして、家庭ほど樂しみな所はないのであります、而して此の樂園の主宰者は誰であるかと云へば、主人でもなければ素より子供でもない、吾々主婦がそれである、故に家庭をして歡樂の花園となさしめるのも、寂寥たる荒野となさしめるのも、唯だ主婦の心懸け一ツに依つて定まるものでありますから、世の主婦たるものは常に此の重大なる責任の其の身にあることを忘れてはなりません。

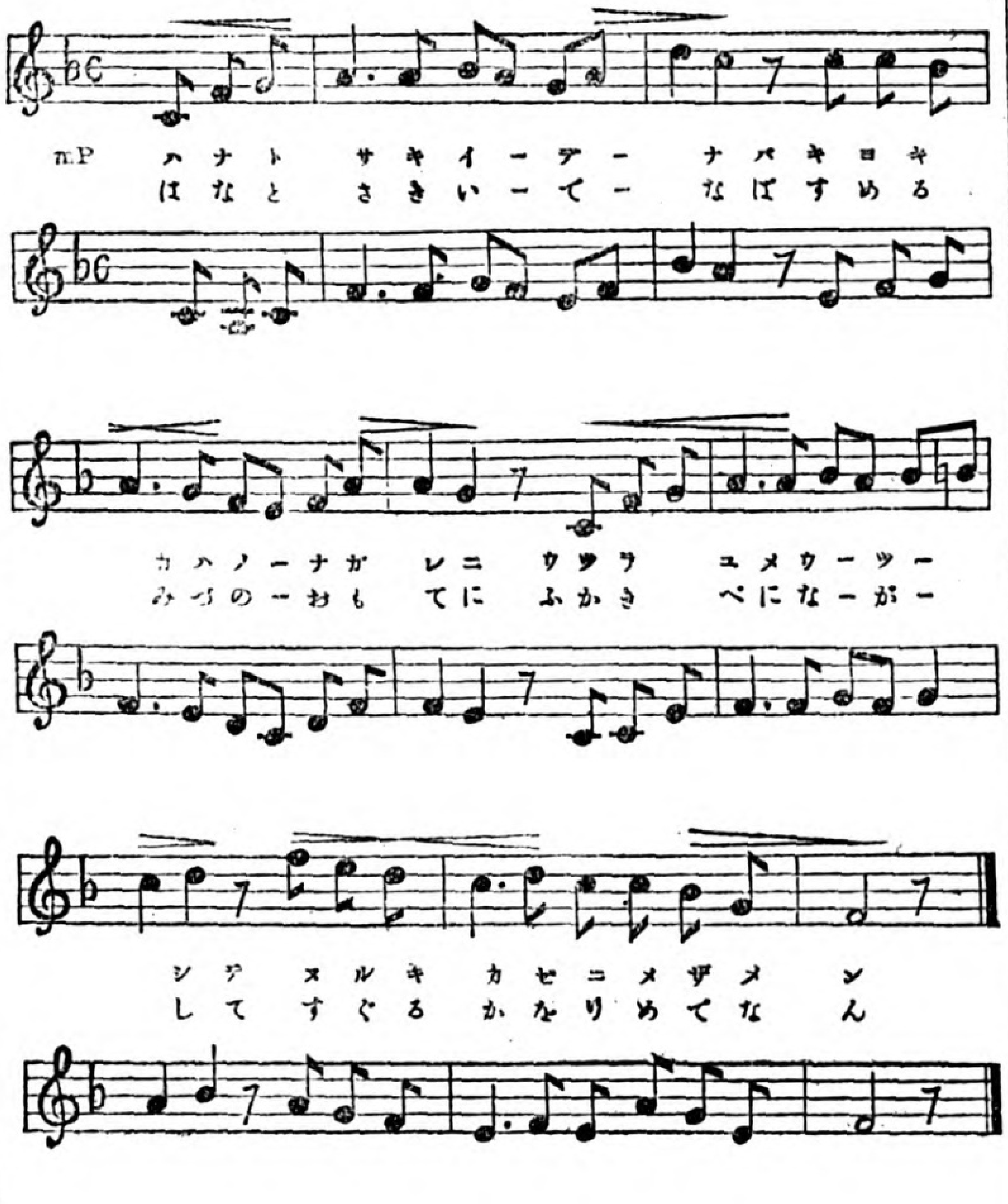
▲書生は如何に　書生の世話、是れは隨分世話甲斐のあるものでありますが、男丈けに思ひ切つた事をして主家を困まらせることがないとも限りませんから、主婦たるものは能く／＼注意をしなければなりません、主婦の注意次第で惡い習慣を悛めさすことも出來、將來有爲の人物となさしめることも出來るのであります、一體他人の家に寄寓するものは、誰しも多少落寞の念を有つて居るものでありますから、主婦は此邊の事情を酌むで遣つて、成べく落寞を感ぜしめないやうにすることが肝要であります、形式ばかり厚遇して置いて、家族一同が團欒して樂しむ場所へは加へず、他人扱ひをするやうですと、人情として自然不愉快を感じて來て、果ては墮落の淵に吾れと沈んで行くやうなことになります、有爲の青年が遠大の志望を懷きながら墮落して行く裏面には、必ず道理では分からぬ原因が含まれて居るものでありますから、主婦が斯かる所に留意するは、要之世を救ふの一端かと存じて居ります。

▲下女は如何に　下女と一口に卑しいもの丶やうに云ひますが、下女なればとて大切な人の娘、その大切な人の娘を預つて居るのでありますから、夜分一人で往來少なき所へ使に遣るとか、妙齡のものに身嗜みもさせずに置くとか云ふことは如何にも不親切な仕方と云はねばなりません、夫れ故私は下女を使ひますにも、常に人權を重んずると云ふことを主體にして使ひますが、其の爲でもありますか皆な能く働らいて、立派に一人前の女となつて嫁に行きます、仁尾さんの家に使はれた下女なら取柄が多いと云つて娶人が多い、さア斯うなると主婦たる私の喜びと樂しみとは何に譬ふる物もない、ますく／＼目を掛けて立派なものにして遣りたいと云ふ氣になります、此方で其の氣になれば下女の方でも仕事に勵みが出て來る、情は人の爲めならずと申しますが要之は一家の幸福になるのであります。

▲不儀はお家の御法度と申して昔から嚴しくされてありますが、何にしろ若い書生や下女が居るのでありますから、主婦は此點にまた充分注意をしなければなりません、不儀不品行の者を出す家庭は要するに主婦が監督を疎かにした結果であつて、罪は當事者よりも主婦にあると云つても宜しいと思ひます、私は曾て弟妹書生下女等を合せて十七八名の家庭を主宰したこともありますが、今日まで一人の不品行者を出したことがありません。

▲働らけば愉快　主婦は先づ自分の樂しみと云ふことよりは、絕對に他人に樂しみを與へると云ふことを念頭に置いて、さうして家事の爲めに献身することが肝要であります、他人が物見遊山に出掛くる時にも、自分は家に居て畵の稽古をしたり、刺繡をしたり、また機などを織つて、夫れに新意匠を加へることは、物見遊山以上に樂しみのあるものであります、要之働らけば働らくほど愉快になつて來て、總ての家事に注意が行屆くやうになつて來るものであります、主婦が斯くの如く愉快に家事を宰つて行くやうになれば、自然一家に活氣が生じて來て樂しきホームを作つて行くことが出來るのであります。

蕾の夢



蕾の夢

作歌　岩野泡鳴
作曲　山田源一郎

花と咲き出てなば、
清き川の流れに
うつら夢映して、
ぬるき風に目覺めん。

花と咲き出てなば、
澄める水のおもてに
深き紅流して、
過ぐるかをり愛でなん。

十分談片（其二）

◎林學士道家充之氏　私が往年露國に出張した時珍らしき人に山の中で出遇ひました、それは彼の有名なるトルストイ伯爵であります、伯爵はモスコー附近の一村落に居をトして、自から土地を耕して農業に從事して居られるのでありますが、其近傍の人々は恰も神の如くに尊敬して居ります、私は其附近の山林を取調べる爲に土地の小林區署長の案內で或る山に登りました、處が此山は時々伯爵が散歩される處であると云つて、小林區署長は其山を伯爵が蹈まれるのを恰も名譽の如く話しつゝ、山の中腹までのぼつて行きました、暫くすると向うの方に黑き影が見へまして、俄然小林區署長は形を改めて彼こそ實に我が伯爵であると注意した、見る間に農夫の如き服裝したる巨人は一步づゝ此方に近寄つて來た、小林區署長は恭しく禮を施して自分を紹介して、これは日本から來た人であると云つた處が伯爵は甚だ珍らしいと云ふので直ちに握手の禮を施され、それから其處らあたりにあつたベンチの上に腰を掛けられてどう云ふ用を帶びて日本から態々來たかと問はれたから、自分は露國の山林制度を調べに來たと答へた、處が呵々と大聲に笑はれ、それは間違ひである、露國の制度などに見習ふ可き處は一もない、日本は小農制度を採つて居る爲に農民が皆幸福を受けて居るが、露國は貴賤貧富の懸隔が甚だしい爲に非常に苦んで居る、又日本の森林は天然林を能く仕立て丶居るが、露國では人造林であつて一つとして模範とす可きことがない、夫れ故態々日本國から見に來ても、恐らく何等の得る處はあるまいとの意見を陳べられ、やれ／＼今日は珍らしい人に遇つたと云ふが如き風で、飄然として林の中に入つて仕舞はれた、世界の偉人たる伯に偶然出遇ふたのは私の最も光榮とする處であるが、露國では婦人小兒までが伯を小說家として尊敬して居る、露國では小說家程世の中に尊敬を受けるものは少い、日本では文藝に對する世人の觀念が薄い爲に小說家は殆んど勢力がない傾きがある、文化の爲め惜むべきことである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會　本月十四日午後二時より本部樓上に於て評議員會を開けり出席者は岩倉會長始め近衞大山谷の各理事評議員は岡部坻子堤常子松平須磨子千家俊子岩佐德子鳩山春子濱尾作子原口鬪子大谷加知子高木鐐子柳谷千代子藤井とく子小浦義子中山幸子有島幸子三輪田眞佐子三井五十子澁谷知和子佐方鎭子三井照子關郞子等にして左の議事に對して決議したり

一、本部支部職員にして公私を論せず事故の爲め一ケ年以上不動の者は自然職務の消滅するものとすることを得との件を可決したり

一、贊助員醵金は十分の四を本部基本金に十分の三を支部經費に十分の三を支部基本金となす件可決したり

一、靖國神社臨時大祭々典中參拜遺族の爲め牛ヶ淵公園に休憩所を設け本部幷に東京支部職員は日割を定め出席し接待を爲し尚ほ參拜遺族へ紀念品を贈與し茶菓を饗せんとする件を可決せり

一、靖國神社臨時大祭準備委員を設け之を便宜上第五回總會準備委員に囑託の件は否決され別に設くることとせり

一、大觀兵式の際は觀艦式の場合に準して相當の設備を爲す事可決せり

◎靖國神社拜遺族接待　來る五月一日より擧行せらるゝ同神社臨時大祭に際し本會は昨年の例にならひ評議員幹事等總て出席し慰藉の勞を採らんとの計畫中なるが本部より支部に對し左の通知を發たりし

來る五月一日より靖國神社に於て臨時大祭執行相成候節本會に於て祭典中は參拜遺族の爲め牛ヶ淵公園内に休憩所を設け茶菓を饗し粗末なる紀念品を贈呈致度に付ては貴地方より出京せらるゝ方に對し貴支部より左式の添書御交付置被下候事に致度且つ參會者は必らず優待員章を用ゆる樣豫め御申含め置かれ度右照會申候也

本會優待員故何官某遺族　何某
右は今般靖國神社臨時大祭へ參拜候に付九段牛ヶ淵なる貴會接待所へも罷出候間此段及御通知候也
何支部

◎第一師團招魂祭遺族接待　去る十三日午前十時青山練兵場に於て第一師團臨時招魂祭執行せられたるが其際我が東京支部主催者となり第一師團の管內各府縣即ち東京神奈川埼玉群馬千葉茨城栃木山梨長野の各支部聯合し當日參列せる軍人遺族を慰藉の目的を以て茶菓の饗應を爲し且つ紀念品を贈與せり今其狀況を記さんに當日は天氣晴朗一點の曇りもなく春色漸く調ひ近來になき好天氣なりしかば近縣よりして遺族の集まるもの二千餘人に及びこれに附添の人を合せば殆んど五千餘人になんなんとするの狀況にして遺族の參拜を終へて物品分配所に集まるや其勢ひ潮の寄せ來るが如く兵士諸氏も頗る苦心の有樣に見へたるが此處の構内を通過せし處に於て各支部より贈與せる煎餅一袋と紀念地圖とを婦人會員の手より一々授けられたれば遺族は多くの頂戴物の上に此厚き贈與物の一を加へ一層の感謝を增したる如く見受けたり夫れより休憩所に於て茶菓の饗應に從事せられ各自皆受持のテント內に於て一々丁寧親切に取扱はれ中には奮發して「皆さん御茶を召して入らつしやい」と招かるゝあり「御掛けなさい辨當を使つて入らつしやい」と大勢にて招かるゝ等一生懸命に働かれ遺族の慰安に盡されたり尚將校の遺族の方は岩倉會長代理大山理事始め評議員阪井春子、澁谷知和子、山地謙子、長岡芳子、藤井德子、宇佐川種子、內山訓子、黑木百子、豐島文子の諸氏接待の任に當られたり當日第一師團長閑院宮殿下には我會員に向て左の御挨拶ありたり

今日の接待御苦勞である、余も滿足に思ふ

倘當日群馬支部より堀副長以下五名山梨より武田支部長以下三名千葉より樋脇副長以下五名神奈川より岡幹事以下九名埼玉支部より大久保支部長外四名其他長野茨城栃木支部より各代表者を出されたり

◎兩縣知事の謝狀　東北三縣凶作につて本會より同縣下に於ける軍人遺族及び廢兵に對し救恤金を贈りたることは前號の紙上に掲載する如くなるが右に對し宮城岩手兩縣知事より左の謝狀を贈られたり

尊書拜讀本縣下凶作に就ては總裁殿下に於かせられ軍人遺族及廢兵の窮狀御心痛被遊候趣を以て救恤金として金壹千圓劵添へ御申越の趣拜承殿下の御思召を懸示し速に配當取計其名金額追而可及報告候條可然御申立相成度別紙領收證書壹葉相添へ一應の御挨拶迄如斯御座候拜復

明治三十九年三月一日　宮城縣知事　龜井英三郎

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子殿

拜啓愈御安康奉賀候陳は當地方凶作に就き貴會總裁殿下に於かせられ特に御痛心被遊縣下軍人遺族及廢兵救恤の趣旨を以て金五百圓貴會より御送金被下確受致候就ては夫々配付の方法を講じ御趣意の貫徹候樣取計可申別紙受領證相添へ不取敢右御挨拶申述候敬具

明治三十九年二月二十日　岩手縣知事　押川則吉

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子殿

◎汽車汽船賃の割引　本會第五回總會の際參會者の爲め汽車汽船賃の割引を承諾せられたる旨通知ありたる會社は左の如し

日本郵船會社　二割引
日本鐵道株式會社　二割引
關西汽船同盟本部　三割引
大阪商船會社　三割引

◎獨乙より寄附　獨乙にて發行する東亞と云へる雜誌の主筆たる玉井喜作氏よりは度々本會に對し送金され今回又第九回の送金を受けたるが同氏の二女龍子氏は曩に特別會員となられ會費十マークを拂ひ居られしが今般死亡されたるを以て會費の追拂を要せぬにも拘はらず殘額を一切拂込れたり

◎寄附金披露　其後拾圓以上の寄附金者は左の如し

一金九拾四圓餘　獨國　フリード、レダー夫人
一金拾壹圓餘　同　エス、マートッシュカー、グライフエン、クラーレ伯爵夫人
一金五拾圓　佐賀　松尾秀子
一金貳拾五圓餘　同　井手トネ子外二名
一金拾五圓　和歌山在住　米國人ヘレホード氏
一金拾圓　大阪　時尾松三
東京音樂活動寫眞會
愛媛　三浦貞子
茨城　中尾藏之助
佐賀　手塚大映子
佐賀　橋本キミ子
同　大石サク子
同　藤山ミス子
和歌山　榎本楠次郎

又支部基本金或は救護金として支部へ拾圓以上の寄附金者左の如し

一金百圓　岡山　安井春野
一金五拾圓　同　岡崎常吉
一金拾五　同　ピー、エチ、ペテー
一金參拾圓　北海道　尾原亮太郎
一金拾圓　同　齋藤金子

◎獨國より寄附　在獨乙國ミュンヘン帝國名譽領事エッワルド、シュセル氏より在獨井上大使を經て獨貨三千マークを本會に寄贈せられたり

◎賀表奉呈　總裁宮妃殿下去月王女御分娩に付佐賀支部西松浦郡幹事部長太田花子氏は賀表を奉呈して御祝御申上たり

◎各地支部狀況

◎東京支部　附屬事業たる裁縫部麻布支部に於ては本月六日麻布區六本木尾崎男爵邸內なる同事務所內に於て一周年紀念祝賀會を催したり幹事小浦義子氏の挨拶あり夫れより餘興に移り小浦夫人は自から假面を冠り裃を着て翁に扮せられ山地子爵母堂は同播取姿姥を裝はれ祝意を表せられる、等興いと深く軍人の遺家族一同此饗宴に陪席し感涙に咽て歸りたり

◎廣島支部　廣島市は軍隊の凱旋する第一着の地にして昨年以來毎日毎夜絶ゆる事なく宇品港頭に上陸せるが同支部の本會員は宇品軍用棧橋に於て之を迎へ尚軍用鐵道停車場に於ては茶菓の饗應に從事し今日まで一日も缺きし事なく夜間と雖も數名の婦人は詰め合せ盡力せられ殊に松本せき子の如きは最も熱心從事せらるゝよし門川同支部事務員出京の際報告せられたり

◎謹告　支部活動狀況は直接發行所宛送られたし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如何にして下女を使用す可き乎

法學博士夫人 松崎悦子

◎家族の一員　私は下女の使用に就いて特別なる研究を致したことはありませんが、唯だ家族同樣、下女も家族の一員として、其の心地を以つて使ふことが最良法であると思ひます、是れは私が多年の經驗に依つて得たる賜であります。

◎主婦の威嚴　夫れ故私は下女と一所になつて仕事もすれば、萬事に於て主從であるからと云つて隔てをするやうなことは致しません、斯くすると下女から馬鹿にされて主婦の威嚴を失くするであらうと云ふ人がありますが、凡てこの尊敬されると云ふことは上下の階級を嚴重にして得られるものではありません、自分から主婦であると云ふ威風を示しませんでも、日數を經るに從つて外形よりは先づ心の底から眞の尊敬を以て仕へるやうになつて來るものであります。

◎疑ふ事勿れ　人を使ふには餘りに疑ひを有ぬたが宜しい、無暗に疑ひをかけますと掛けられた方では宜い氣持ちのせぬもので、要之他人氣を出して最後は吾が家庭の不爲となることが往々あります、故に隔てもせず疑ひもかけませぬと、自然其處に溫かい情が出て來て、家の事も子供の世話も、他人の事と思はず吾が事にして親切にするやうになります。

◎樂を與へよ　人間は何にか心に愉快なことが無ては元氣よく働けぬ者でありますから、私は時を見計らつて下女を遊びに出して遣り、また自分で見物に連れて行くこともあります、斯樣にして娛樂を與へて遣ることに注意して居ります爲か、私の家の下女は皆な終日愉快に働いて呉れます。

◎嫁入の支度　何れは他に嫁ぐ身でありますから、衣服類の如きは相當の品を見當り次第買つて置いて、少しづゝでも嫁入支度をさせます、既に私の家から嫁附いた者もありますが、見合の時などは髮の形から着物の着樣まで注意をしてやりまして、私が連れて行つて何にかと世話をして遣ります、斯んな風にして家から出しますので、嫁に行つたものは皆な私の家を實家のやうにして出入を致して居ります、斯うなるとモウ他人のやうな氣がしませんで、口に出しては語ることの出來ない樂みがあります。

◎敎育ある者　如何に此方で隔てをせぬやうにしても、無敎育なものですと兎角僻み根性などを出して困らせられることが多う御座いますから、私共では少し敎育のある者を使ふやうにして居ります、唯今居りますのも地方の女學校に居たものでありまして、夫れからそれと順に申込みがあり、まだ一遍も桂庵の手を經て雇入れたことはありません、桂庵などから來るものには、惡習俗に染み込んだものが往々ありまして、子供などに惡感化を與へることが無いとは限りません、故に下女を雇入れるに方つては、先づ其の選擇に十分の注意を拂ふことが肝要であると信じます。

心の衛生

久津見蕨村

◎近頃は取分けて兒童の衛生に注意されるやうになりましたは、誠に結構なことでございます。これで子供衆の身體が追々に丈夫になり、遂には日本國民全體が立派な身體を持つやうになりませう。

◎之に就きまして、尚ほ今一つ厚く御注意を願ひたいことがございます。夫れは兒童の心の衛生と申すことでございます。既に兒童の身體の衛生に注意したからは、更らに進んでその心の衛生に注意するのでございます。

◎『ラア孃さまの御記憶の宜いこと。御怜悧でゐらつしやること。も一つ之れも御記憶あそばせ。ア、そうでございますよ。アレも御記憶てお置きあそばしませ。コレも御記憶あそばしまし」と兒女の記憶の宜いのを喜んで無暗矢鱈に敎へ込まうといたします。

◎子供も亦これを記憶ます。努めて記憶やうといたします。其悧發な所は誠に可愛い。喰付たいやうでございますから、益す敎へ込む、益す記憶やうと努力まして子供ながら精神を興奮させます。

◎すると子供は神經を使ひ過ぎます。其小さい腦髓を苦しめます。大人ならば頭痛がして耐らなくなるのでございますが、子供は夫れに氣付きません。知らず識らず神經過勞に陷ります。

◎怜悧な兒や記憶の善い兒が兎角に身體の弱いのは、生れ付きもありますが、大抵はこの神經過勞から來るのでございます。まだ充分に發達しない腦髓を餘り多く使ひ過ぎます結果、總ての營養が多くは茲で消耗して仕舞ひまして、結局身體が弱くなるのでございます。

◎これが段々高うじますと、或は病氣を釀すこともあります。學齡の兒童が小學の試驗後に往々病み付くとがあつたり、一時非常に衰弱することのあるのは、詰り此神經過勞の結果なのです。

◎ですから男兒女兒には、成るべく其神經を刺激する事の少ないやうにするが肝要です。妄りに其精神を興奮させんやうにするのが宜しい。記憶が宜いからと云つて、お怜悧と稱揚立てゝ無暗に物を敎へ込むは勿論惡うございます。

◎身體の衛生が適度の運動と休養とを要しますと同格に、心の衛生も亦腦髓、神經の適度の使用と休養とを要します。小さな腦髓とまだ充分に發達しない神經とを持つてをります子供には殊に之れを要するのでございます。

小さい事

工學博士夫人 下瀨勝千代子

◎習慣の增長　一家を治めて行くには、何うしても細かい、小さなことに重きを置かねば完全な家政を持續して行くことは出來ません、細かい事、小さい事だと云つて其儘にして置きますと、何時しかこの習慣が增長して來て、何事にも大ざッぱな、不經濟なことばかりをするやうになつて來ます。

◎美麗な殿堂　西洋では中流の婦人でも自ら市に籃を提げて買物に出掛ますが、日本の中流以上にある婦人はまだ〳〵其處迄に至りませんから、自分で市に買物に出掛けぬ代りには、家內に居て小さい事にも儉約をして、空費を出さないやうにすることを心掛けねばなりません、塵も積れば山とやら、些細な注意は近き將來に堅牢美麗の殿堂を築きます。

◎客に對して　假令ば小人數のお客であるからと云つて、料理を仕出屋に誂らへる、是れは誠に世話のない、手數のかゝらぬ良き方法でもあり、又た少しの料理に薪炭の無駄使ひをせぬやうにも見へますが、結局は高いものになつて決して調法な良き方法とは云はれません、是れを家庭で自ら手を下して致しますと、仕出屋の二人前で、仕樣に依つては三人前でも五人前でも出來るのであります、此點から見ましたら、自分の手數さへ厭はねば、薪炭などは何程多く使つても、得はすると損耗の立つやうなことはありません、夫れのみならず、客の嗜好に適するや否や知れもせぬ仕出屋の料理を饗するのは、客を厚遇する所以であるまいと思ひます、それよりは、主婦の手になつた料理を饗するが、客を厚く遇すると云ふ點に於て優つて居るかと思ひます、故に主婦たるものは、多少料理の仕方を覺へて置く必要があります。

◎實地の練習　一家を完全に治めて行くと云ふことは、學問や理窟ばかりでは到底出來るものではありません、實地の經驗と云ふことが最大の要素であります、故に是れから新らしき家庭を作らんとする年少の婦人達は、空理空論に榮耀の夢を見ず、家政に經驗ある母親に據つて、實地の練習をなすと云ふことが肝要であります、返す〳〵も小さい事とて輕視せないやうにすることを希望します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

樂人

三島霜川

「あゝ、もう此樣なところへ來て了ッた。」

「然うだね。」

「何しろ賑なタンホイゼルで放り出されたんで茫ッとして了ッた。」

「大きにさ。」と自分は、尚だ夢を見てゐるやうな心地で、「タンホイゼルも好いが、あのバイヲリンの獨奏は、實に天下の絕品だッたね。僕は、スッカリ醉はされて了ッて、尚だ那の微妙な音が耳の底に殘ッてゐる。」

「巧いも何もあッたものぢやない、ありや神品だ。尤も天才だといふけれど、眞箇大天才だ。」

「それから修業が積むでゐるんださうだな。年こそ若いけれど、佛蘭西へ二年、伊太利へ三年も行ッてゐたといふぢやないか。」

「然う、然う。彼地でも、なか〳〵評判の好かッたもんださうだ。」

「いや、幾ら何んと謂ッても、歎賞の言が盡ないよ。藝術も那の位になると、人間を超脱してゐるからね。何しろ樂人といふものは、華美で、而も權威のあるものさ。あの奇麗な紳士淑女を、一堂に集めて置いて、萬目環視の中で樂を奏するのだ。そして其の人等を醉はせて、其の人等の心を奪ッて了ふのだ……

設半時間にもしろ、藝術の力で、あらゆる人の心を奪ふのだから、壇上に立ッてゐる間、彼は、正に帝王の權威を持ッてゐると謂はなければならない。」

話してゐる内に、自分等は何時か、上野の清水堂の下あたり迄來て了ッた。自分は、只一種華美な、甘ッたるい感想に心を滿されて、氣も、心も浮々してゐた。其で何か微妙な調子につれて、心が躍り出す。

もう日の暮に近い。濃い、灰色の霞は、高臺の建築物の輪廓を暈して、その彼方に、落日の光が金色に輝いてゐる。その輝く光は、爰許へも射して、爛熳たる櫻は燃えるかと思はれる。風も無いのに、花びらは頻に散ッてゐる。吹く風は軟に人の肌に觸れる。春光四下を壓して、燕はもう、南の國から渡ッて來て、其處らを飛廻ッてゐた。此の花の夕暮、空を見上げても、心が爽になるが、其處らを見ても、悅胸に滿渡る……假に建てられた凱旋門の方から、電車の鈴の音、何やら人の喚く聲、俥の軋む音、種々雜多の市街の響が聞えるけれども、それは一々、區別することが出來ない。たゞごッちやになッて、まるで潮の滿ち來るやうに、自分の耳に鳴響くのであッた。それに音樂會から歸りの貴婦人淑女または紳士は、或は馬車を驅り、或は俥を飛ばして、ひッきりなしに花の奧から出て來ては、市街の雜踏の中へ驀進する。そして馬車の通る度、または端麗な淑女の車を飛ばして行く度に、路上の人は足を停めて、無作法に馬車の中を覗き込み、または車上の人を仰ぎ見るのであッた。

自分は、此の賑な中に立ッて、靜に樂堂の中の有樣を幻の如く胸に描き出してゐた。魂は、樂堂の裡へ引戾されてゐるのであッた。そして醇酒にでも醉ッたやうに、恍然としてゐた。

凡そ現世の榮華と歡樂との影を眼に拙にして、天上界の靈音にも耳を傾けられるのは音樂會であらう。音樂會！それは奈何に華美に、奈何に爽快なる者であらう。或は、パイヲリン、或は、ピヤノ、或は、ヲルガン、それは何にしても、微妙なる音律を放つ中に、滑らかなるボンネット、匂深きリボン、またはペチコートの裾引く音のつゝましげなる、三枚がさねの艶麗なる、衣香響影七彩陸離として、眼は眩かんばかり。而して樂人の纎手、一度彼の微妙なる音律を籠めた樂器に觸れると、その音は、次第に人の心を誘ッて、無何有の境に導くのであッた。

さらば、縹渺悠遠なる音は、堂に滿渡ッて、幾百幾千の聽者の眼は、悉く樂人に集ッて、また咳一ッする者がなくなッて了ふ……その時、天なる樂園は、此處に下ッて、花降り、蝶飛び、天女堂を繞ッて舞ふかと思はれた。

自分は、その光景を思浮べて、さながら夢を見る人の如。夜になり行く巷の動搖をも、遠い國から微に微に押寄せて來るやうに思ッてゐた。そして自分の心は、輕く、樂しく、まるで宙を步いてゐるやうに町を繞ッて行くのであッた。

もし此の時、自分の顏に注意する者があッたら、さながらに、これ、眼は、花の下に飛ぶ小鳥の其にも似て、空しく何物かに憧れてゐたであらう。そして頰は、春の曉の雲のやうな血潮の色が潮してゐたであらう。

けれども、一瞬間の後、眞ンの一瞬間の後、自分の心は全く變ッて了ッた。丁ど凱旋門の下を通る時であッた。後から一臺の俥が來た。ふと、振向いて見ると、車上の人は、彼の天才の樂人であッた。而も路行く人は、誰一人として、此の車上の天才を仰いで見る者が無い。樂堂に於ては、帝王の權威を以て人の心を引付けた樂人もたゞ、一箇路傍の人として何等の注意も拂はれなかッた。馬車の中は覗いて見ても、車上の樂人には一瞥も與へなかッた。

（をはり）

蝦夷婦人傳

三浦千畝

▲烈女知喜理亞志加以

烈女智喜理亞志加以は、國後の總酋長月舜の妻にして、舜古登以の母なり。寬政國後の變に、其夫と倶に極北の地に在り、歸つて松前の藩人及び舟子の害に罹る者を救ひ、其夫を佐け、爲めに奇計を出し、松前將士の令を待ち、大に凶猛の夷を慰諭し、東部無事なるを得たるは、この老嫗の力なり。時に年六十五。

▲貞婦茂禮津志

貞婦茂禮津志は内保郡婦捉の夷失計六の妻なり。安政の間、夫病て牀に在ること數年。僻地醫藥なし。婦小舟に棹し、十日許りを歷て釧路會所に至り、着服を以て藥に換へ、歸つて之を夫に服せしむ。嘗て山に入り、草根を掘る、時に二熊あり。一兒を率て來り婦を見て一吼之を攫む。婦腰刀を拔き、其兒を刺す。一熊傍より躍て之に向ふ。婦鉞を擧げて之を迎ふ。熊恐怖して去る。遂に其二兒を捕へて歸る。蓋し貞烈の操、熊羆も敵する能はざるものか。

▲孝女知愈非利加

孝女知愈非利加は、天鹽の夷左界の妹なり。左界夫妻運上屋に役使せられ、久しうして歸るを得ず。二親家に在り。知愈非利加善く之に事ふ。或は夫を迎ふるを勸むる者あり。肯かず。曰く、夫若し父母に不順ならば之を如何と。父母歿して天鹽川上の宇津に家す。近隣に嫗あり。年七十餘、其子亦運上屋に役して久しく歸らず。嫗生計窮き、悲歎して息まず。知愈非利加之を憐れみ、伴うて家に還り善く之を視ること所生に事ふるが如し。又傍邑に阿知宇哲烈と云ふ者あり。足病み立つこと能はず。而して運上屋其妻を役し、抑留して還さず。阿知宇哲烈飢困す。知愈非利加又迎へて之を家に養ひ、山に採り水に漁し、拮据以て老病二人を扶持す。其爲す所、古任俠の躬を恤れみ弱を扶くるに比するも優る有りて劣ると無し。其孝、其の俠、眞に天禀と云ふべし。

▲賢母比利加牟保

賢母比利加牟保は、十勝國抑帶村の土人、志由良遠久の母なり。不幸にして夙に夫を喪ひ、二兒を鞠育し、家業に勉勵し、且つ其餘暇を以て近隣の子弟を教導せり。齡百一歲、志行猶ほ衰へず。明治十年、官賞して金三圓を賜ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人の百號にみてるを祝ひて

理事 前公爵夫人 近衛貞子

千萬とかぞふるときも遠からし
はるにさきそふことのはの花

理事 侯爵夫人 鍋島榮子

さかえゆく文のはやしにうくひすの
もゝよろこひの聲のとかなり

評議員 法學博士夫人 高木鍒子

眞こゝろに國おもふ婦みよ萬代も
咲きにほはなん文のはやしに

評議員 中山幸子

もゝたひのことはのはなの咲そへて
いく千代までもかをるなるらむ

評議員 佐方鐵子

四かへりの春まちいてしもゝの花
み千とせかけてかをれとそ思ふ

評議員 下田歌子

日のもとのみはたの
色のくれなゐに
匂ふもうれしひめ
もゝのはな

愛國文壇

美哉日本

江戸靜川

(一)

日本は風景に富むの國也、日本人は風景を愛するの國民也、而も日本の風景の絶大なるに比して、何ぞ日本人の愛する風景の狹く且つ小きや、吾人はこの天然の美なる國土に生れて、而して其の絶大にして崇美なる風景を認識せざる國民の多きを悲しむ。

白扇倒まに懸かる東海の天、富嶽は實に日本の風景を代表したる好標本也、其の高さを云へば、世界に是れより高き山は幾らもあり、然れども其の山容の斯くの如く美なるものは蓋し皆無也、日本の總ての風景は富嶽のそれの如く皆な美くしき也、世界に以て比すべき風景なき也。

(二)

日本の山河は東に往くも西に行くも、いづれ美趣を備へて旅人をして低徊顧望、笻を停めて去るを忘れしむ、鴫立つ澤の秋の夕暮、紫雲棚引く三十六峯、名を聞くだにそゞろ美感を起さしむ、而も是れ小なる風景美也、日本の風景には更らに是れより美にして大なる風景ある也。

(三)

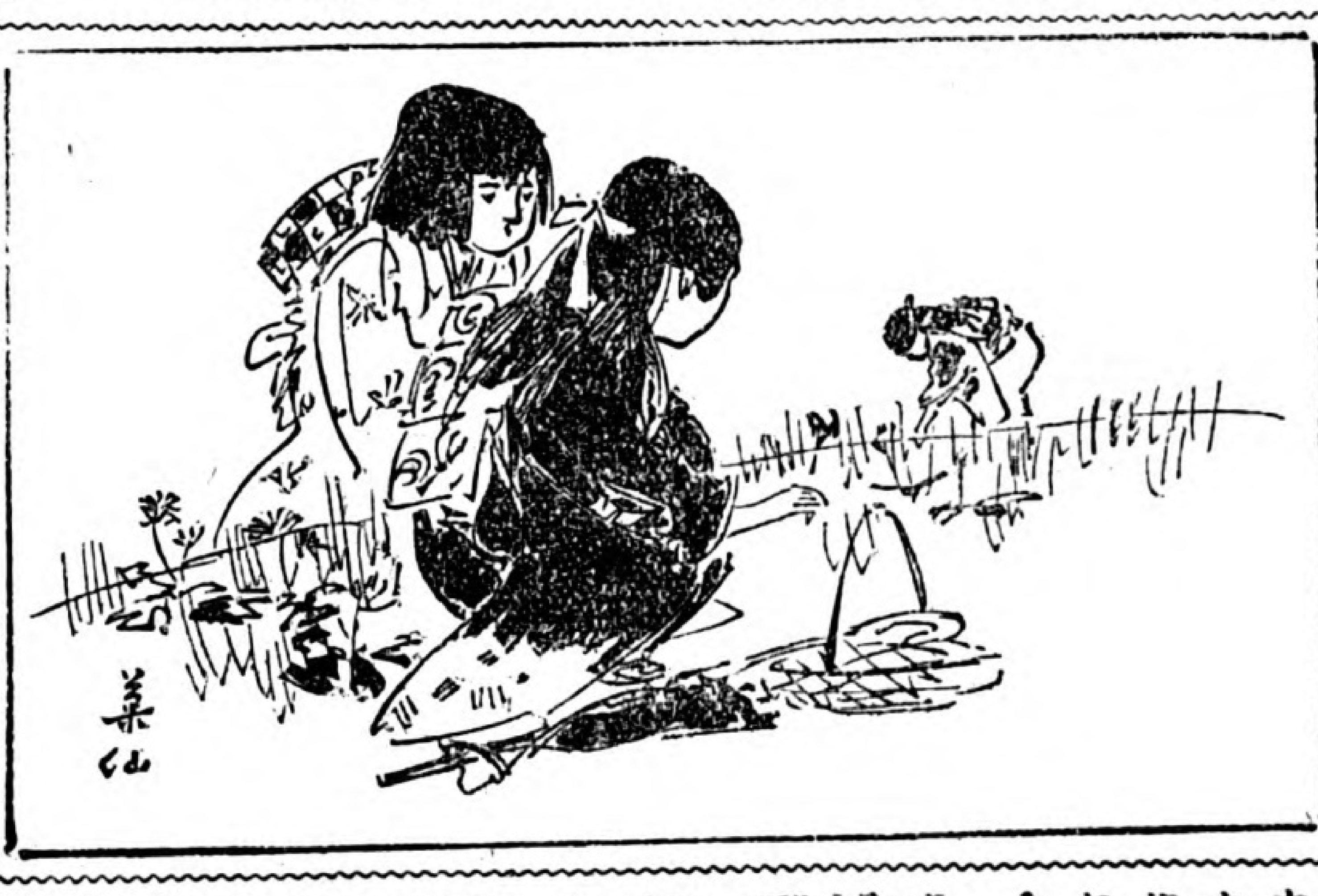
古來日本人の最も勝れたる風景の地として稱へたるは、陸前の松島、丹後の天の橋立、安藝の嚴島也、是れを併稱して日本の三大風景となす、然り松島の稚松繁茂翠滴たるが如き小嶼の海中に碁石を撒布せるが如く點在せる、天の橋立の神仙の斧を揮つて架せる橋のごとき形をなせる、嚴島の神話に似たる歴史を有し、芳雲海波に映ずる花時の風景、齋き祀れる市杵島姫の麗容を偲ばしむる、慥かに絶美の風景に相違なし、然ども未だ小也、其の三保の松原の如き、琵琶の湖水の如き、須磨の如き、明石の如き、更らに是れより小なるもの也。

(四)

斯くの如く日本人の眼に映ずる日本の風景は小也、故に詩に歌に是れを謳歌し嘆美したるもの尠なからずと雖も、終に一の雄大莊重の調を帶べるものなし、日本の文學が遠く奈良平安の朝より、德川時代を經て明治の今日に至り、著しき進歩發達をなしたるも、未だ以て世界的文學の域に達せざる、其の源を質せば實に日本人の眼に映ぜる日本の風景が餘りに小さかりしが故也。

(五)

瀬戸内海は攝津の和田の岬より周防の德山に至る間、最も佳景に富む、其の間實に數十里、快速の汽船を以てして猶ほ一晝夜を要す、スイッルランドよりライン河を船して下るを世界第一の佳景と稱したるもの、今や日本の汎く世界に知らるゝに至りて、この瀬戸内海の風光はライン河畔の風光に勝る遙かに其の上位に在るを認められ、歐米人のこの絶大絶美の風光に憧憬れて、觀光の爲め來朝するもの年に多きを加へつゝあり、是れを一日亦た半日にして觀盡さるゝ松島、天の橋立、嚴島の景に比する、爛熳たる天然の櫻花と、少女の手になれる櫻花とを較べ見るが如し、更らに行雲流水、錦心繡膓の吟客が、前と後に其の荷物を振分けて擔げる肩の如く、日本を西と東に振分けたる山嶽の、如何に崇く美くしきよ、亦た其の山嶽に源を發して東に西に將た南に北に、纖美なる絹糸の亂れて投げ出されたるが如き大河小川の、如何に麗はしき詠めなるかよ。



(六)

日本の風景は斯くの如く雄大也、而も日本人がこの雄大なる風景を知悉せざりし所以のものは、實に昔時交通の不便なりしに基く、然れども今や交通機關完備の域に近きて、東西南北、何れの所に之くも至極便利なるの時代となれり、大井川に川止の制札を樹つるの必要なくなり、碓氷の峻嶺も喫烟談笑のうちに越さるゝの時代となれり、於此乎三月長崎を出發して六月北海道の根室に到着するの旅行をなせば、足に土を踏まず、手荷物を肩にするの勞なくして、この四ヶ月間櫻花の爛熳を恣まに翫賞することを得べしと云ふ、嗚呼風景を愛する溫雅高懷の國民よ、卿等はこの美くしき國土に生れてこの美くしき風景を有す、宜しく探勝の氣風を養ひ以て吾が文壇に貢献する所あれ是れ大國民の當になすべき任務にして、決して無益の遊樂に非ざる也。

▲御禮申上げ候▼

東京柿崎瀧子、石川新田暉子、長崎葛原梅香子、東京白井いし子の君を始めとし第一百號發行に際して祝文祝歌を寄せられたる諸姉へ謹て玆に御禮申上げ候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短文披露　題「百」

▲海頭清音　東京　六郷公子
朧の春の月は今暮れたばかりの此海邊に、隱かな風情を添へて、薄衣に包まれたやうな海の面からは「お前百までわしや九十九まで」と優しい聲の歎乃が微に聞えて居る、あゝ御心でなくば、此景色のやうな家庭の平和は得られまい。
▲選者曰　短文壇開始以來の傑作

▲皇國富源　大阪　富永才子
酒造家の藏男云ふ、冬は百日夏は百姓、百と云ふ字の免れられぬ身なる哉と、實に然り、然どもこの百と云ふ字の免れられぬ人々の勞働によりて、皇國の富の幾分は作り出さるゝ也、吾等は愛す、生氣滿々たるこの百の字を。
▲選者曰　作者の技倆に一過境を見る

▲萬劫不滅　東京　鈴木安枝子
百の字をくづせば一白となる、一白は強き性なり、更らに一は物の初めなり、白は無垢の色なり、斯くの如き慶き文字のまた他にあるべくも思はれず、百萬劫の末までも、百の字こそは尊けれ。
▲選者曰　麗たくも書かれたり

▲髪かたち　愛媛　藤野勝子
百日紅は少女の熱烈なる情燃ゆるが如き花なり、演劇に百日鬘冠りて扮せるは、何れ惡者の標目なれど、百姓のチヨン髷は可愛らしきものなり。
▲選者曰　着想面白し

▲百尺竿頭　熊本　谷野英子
一見は百聞に若かずとかや、吾れは百尺竿頭更に一歩を進めて、百萬の書冊を讀破せんとす。
▲選者曰　氣概あるの文なり

作歌披露　題「花間春月」

○雲と見したかねの花の絶間よりにほひ出てたる春の夜の月　東京　浦月子
○咲きにほふ花の雲間を洩れ出ておぼろにかすむ春の夜の月　山口　末田たけ子
○みよしのゝやまの櫻の木の間より匂ひ出てたる春の夜の月　大阪　富永才子
○よしの山花の木の間をもれいつる影さへにほふ春の夜の月　大阪　山中益子
○みよし野の山の櫻の木の間より影ものとかににほふ月かな　山形　三用ゑい子

○霞かとみまかふ花のたえまより　おほろににほふ春の夜の月　京都　磯谷操子
○咲きみてる花の木の間をもる月の　影もにほへる春の夜中哉　東京　白田はつ子
○咲きつゝく花の梢のひまもりて　かけさへにほふ春の夜の月　東京　戸塚鐵子
○人浪はしつまりはてゝ隅田川　花の堤は月となりぬる　北海道　西久子
○暮るゝも忘れてめつる花の間に　にほふもうれし朧夜の月　山口　末田良節子
○春の日の暮るもしらて見し花の　梢にかゝる夕月の影　函館　神尾とめ子
○美はしき花の梢に一しほの　なかめをそふる春の夜の月　石川　新田暉子
○たくふへきものこそなけれまさかりの　花ににほへる朧夜の月　京都　藤波夏久子
○かくわしく匂ひ出てけり花間より　おほろに見ゆる春の夜の月　東京　伊藤靜子
○さかりをは今宵も見よと朧月　花の木の間の影そゆかしき　兵庫　乾榮子
○おほろけに花のありかの見ゆるかな　くもりもはてぬ春の夜の月　京都　渡邊豐子
○咲きにほふ花に光をゆつりてや　おほろに霞む春の夜の月　愛知　平松いと子
○花の上におのか光をゆつりけん　おほろに霞む春の夜の月　靜岡　清水菊子
○みよし野の山の櫻の咲しより　よな〱霞む春の夜の月　茨城　綿引馨子
○みよし野や梢の花にやとりつゝ　よな〱霞む春の月影　靜岡　丹澤春子
○さらぬたにたちさりかたき花の上に　にほひそめけり朧夜の月　東京　北村露子
○なかき日たつひにくらしゝ花のかけ　たゝんとすれは月そにほへる　山口　末田三枝
○のとかなる日もはやくれて花明り　さすよと見しは春の月影　靜岡　中村さだ
○かへるさをわすれて又もたゝすめり　月のにほへる花の木陰に　三重　諸戸常子
○咲にほふ花にひとしほ色そへて　ほのめきのほる春の夜の月　長崎　葛原梅香子
○咲にほふ梢の花の木の間より　川面にうつる春の夜の月　東京　小島粹子
○おもしろく月もにほひて咲花の　梢にかすむ春の夜半かな　函館　河崎とみ子
○霞曇り朧に照ると見し月は　花のすきもる光なりけり　長野　高橋きよ子
○白雲の掩へることき花間より　もれ出にけり春の夜の月　埼玉　加藤美代子
○みよし野の花に匂へる月影は　梢にかけし玉かとそ見る　山形　三田とし子
○枝ことに咲ものこらぬ花の間に　のとかに霞む春の夜の月　千葉　小熊たま子
○一入のなかめをそへぬ櫻花　さきの盛りに月を宿して　山形　阿部さゐ子
○こゝろありてちりゆく花を惜むらん　朧に霞む春の夜の月　東京　五藤敏子
○咲そめし庭のさくらの木の間より　にほひ出たる夕月の影　埼玉　森田竹子
○霞みつゝくれにし花の木の間より　おほろに見ゆる春の夜の月　山梨　芦澤ゆき子
○さくらかりおもはぬ方に日はくれて　花間に霞む月を見るかな　岡山　猪木極子
○なか〱にゆかしきものは朧夜の　花の木の間を照らす月影　埼玉　山崎国子
○おほろなる月は花さく木の間より　見えてのとけき春の夜半かな　京都　渡邊よれ子
○香にまよひ花をたつれて春の夜の　木の間にやとる月を見しかな　東京　福田喜代子
○山さくら雲と咲きぬる枝間より　ほの〱ににほふ春の夜の月　岡山　貝原壽惠子

○月は今花の木の間にかゝりけり　たとしへかたき春の夜半かな　愛知　市[illegible]子
○咲花はおほろけならすかすめとも　もりくる月の影ほのかなる　岡山　武田[illegible]子
○咲みてる梢の花にかけしめて　月はいよ〱とけかゝりけり　群馬　伏島たき子
○風もなく今をさかりの花の上に　おほろに霞む春の夜の月　靜岡　萩原さだ子
○ふく風の誘ふまに〱ちる花の　朧に見ゆる春の夜の月　岡山　谷とめ子
○さく花のふかき匂ひにつゝまれて　わきても霞む春の夜の月　東京　長[illegible]綾子
○咲き匂ふさくらの花にあくかれて　しはしはやとる春の夜の月　茨城　綿引節子
○咲き出てし庭のさくらの花間より　もれて霞める春の夜の月　茨城　瀬恵計子
○今宵しも庭にかをれる夜櫻の　花の隈に月やとるらん　靜岡　大高ふみ子
○咲く花の木かけさまよふ人たえて　月しつかなり山守の庵　埼玉　水野淑子
○江の上にかけおく花の木の間より　霞みてうつる春の月かな　函館　佐藤かつ子
○春の夜に咲そふ花のこのまより　さなから出し月そ霞める　兵庫　清原千代野
○春の夜の花にとさせるよし野山　弓張月の影そさしいる　東京　風[illegible]保子
○たとりゆく花の下道日は暮れて　さしくる月も霞むなりけり　東京　林ゑい子
○吹風に花ちりしきて木の下を　おほろにみする春の夜の月　東京　三宅ひさ子
○さくら木の梢にかゝるおほろ月　花のかをりをたつれてしかな　島根　江角靜子
○人たえし花の下道しつかなり　梢に月の影かすみつゝ　長野　金野やほゑ
○咲にほふ花のあたりの月影に　いぬるもをしき今宵はかりは　三重　玉置奘津子
○日は暮て道は遠しとなけかしな　おほろつき夜の花の下路　東京　井上いつ子
○今宵こそいよ〱春の月ならん　花の木の間をもるゝさやけさ　富山　草野柳子

▲投詠數　七百三首

俳句披露　題「蝶」

○天　富士晴れて田子は胡蝶の舞ふ日哉　兵庫　和田さと子
○地　御恩賜の袴足蹈む日や舞ふ胡蝶　熊本　黒川友翠女
○人　蝶々や子の守り托す網の上　弘前　ま女

蝶々や池の上にも花のかげ　青森　中田たけ子
蝶追ふて出たる濱邊や片帆片帆　長野　金野やほゑ
花の散る中から出たり舞胡蝶　富山　草野柳子
野遊や蝶あとになり先になり　東京　小島幹子
蝶々や絹張傘のみぎひだり　函館　佐藤かつ子
花賣りにつき來る市の蝶々哉　岡山　木下竹子
粟拾たくらにとまりし胡蝶哉　東京　白田はつ子
蝶追ひて花わすれたる小女哉　沼和　水野淑子
たはむるゝ猫に浮雲き胡蝶哉　東京　金子すて子
雛ふ蝶や袖を傘とも扇とも　東京　柿崎温子
蝶追ふて知らず來にけり花の下　神戸　乾粂子
おぜ道をたどるや蝶の道標　茨城　綿引馨子
水面や浮雲き蝶の舞ひ所　愛知　山本花丁女
雨は未だ知らぬ羽色の胡蝶哉　東京　高橋野露女
てふ〱の夢やふりけり酒の醉　大阪　富永才子
少女子のかざせる花に胡蝶哉　群馬　伏島たき子
野邊に敷く雜諸の上や舞胡蝶　埼玉　森田竹子
蝶々や牛の歩行みも春らしき　東京　秋田小菊子
蝶追ひつおはれつ妹が小歌哉　東京　中山まさ子
野の道や蝶に追はれて日の暮る　東京　川合六花女
蝶々の花に醉ふたか源氏舞　京都　磯谷操子
しばし身を蝶に借りたし花野原　京京　伊庭玫子
蝶二つ心一つに親しけり　弘前　葛西文子
吹く風にゆらくは蝶か將た花か　山形　阿かさゐ子
蝶々や追ひ出た先は水の上　島根　江角靜子
百花に親しむ蝶の臨みかな　京京　大澤幸子
蝶舞ふてけふの日和を踊りけり　東京　押田琴子
振り袖の風に追はれる胡蝶哉　愛知　市橋幾子
初蝶や慕ひ切むる海の上　熊本　黒川靜枝子

第廿三回作歌募集
題　汐干狩
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
優等の作歌は四月五日發行本紙上にて披露すべし

第十六回短文募集
題　夢
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
優等の作は四月五日發行の本紙上にて披露すべし

第四回俳句を募る
題　時鳥
選者　編輯局同人
規定　一人三句以下
優等の句は四月五日發行本紙上にて披露すべし

締切三月二十五日限り

第廿五回作歌募集
題　學
選者　某公爵夫人
規定　一人三首以下
優等の作歌は四月二十日發行本紙上にて披露すべし

第十八回短文募集
題　國恩
選者　編輯局同人
規定　一行十八字詰十五行以下
優等の作は四月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第六回俳句を募る
題　青葉
選者　編輯局同人
規定　一人三句以下
優等の句は四月二十日發行本紙上にて披露すべし

締切四月十日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

母より受けたる教訓

(其一)

▲石山寺の一夜

評議員 三輪田眞佐子

嘗て母につれられて、石山寺に詣でける時、母おのれに教へたまへるやう、汝は女の子にしあれば、この寺につきて、傳ふる傳説を告げむ。まことや、この寺は、むかし、紫式部が、上東門院に、奉らばやと思ひ立ちて、源語を書き給ひし所なりとぞ。なべて、この時代には、清少納言を始め、いみじき才媛輩出したりしも、德操の正しきものは、稀なりしに、ひとり、式部は世の濁流に染まぬのみかは、かくめでたき文をさへなむ、書きける。誠に、後の世の模範となるものかなと。おのれ、忽ち式部を慕ふ心起り、もし、今の世にかゝる君在さむには、朝な夕な、これに從ひて、學ばんものをと、幼心ながら感慨なゝめならざりき。折しも、月いと清く、四方のながめ、さながら、塵の世の外にある心地ぞしける、あはれ、このつきや、式部の文かきなれし、窓をも照しけむと、思ひつゝ、空をながめて、

いまもなほ、心にうかふ、みつくきの、あとをさやかに、てらす月かな。

と、三十あまり一文字をよみて、母に進めたれば、母は汝も女德を守りて、學のわざを怠らざるこそ、わが願なれと、答へ給ひけり。今や、母は、既に冥土の客となり、おのれも、亦、老いぬれども、いかでか、なほ、その折の教を忘るべき。

蓋し、今日、紫式部と石山寺との關係を以て、歷史上全く虛傳なりといふも、おのれを感動せしは、事實なるを以て記しぬ。

▲虛言策畧を忌む

評議員 鳩山春子

母より受けたる教訓にして最も心に銘し居ることは虛言を云はざる事、表裏なき事であります、私は家庭にありて母が人前を飾るとか間に合せを云ふ等のことを嘗て見たることなければ、世間の婦人も皆左樣あるべきものと信じ居りましたが、漸く一人前となり、他の老成の御婦人方と御交際する樣になりましてから、立派の御婦人にも輙もすれば虛言表裏あるを覺りて、ただ〳〵不審に堪えられんのであります、私は虛言を憎み策略を嫌ふことは、罵詈嘲弄の比に非ざることは自分ながら奇妙に感じますが、之れは皆母から受けたる感化と存じます。

我國の歷史は殆ど戰爭の歷史であつて、戰爭に於ては策略を要するものと見えますから、名將の策略など隨分賞めて記しあります、これは當然のことならむと思ひますが、歷史は平時に於て信用の如何に尊むべきものであると云ふ記事が少なきため、其餘弊一般に虛言策略を左のみ惡しきことと思はざる樣になつたものと見えます。

先日もコンノート殿下へ實業家の御馳走の演劇中日英同盟と申す演劇に、家康が彼の英人アンヂンを引き留むる策略のため虛言を云はれしを、左もエラソーに演じ、實に冷汗背を濕す樣感じました、物事を理解し居らるべき中流以上の人物にても、動もすれば未だ虛言を左迄惡いことゝ思はれぬ人々もありますから、下等社會に於ては虛言も方便など心得居るもの決して少なからぬことゝ存じます、虛言策略は一回は目的を達するならんも、唯々一回にて其人の信用地に陥つる次第であります、而して個人に就ても國家に關しても信用程尊きものなく、信用なき國家、信用なき人物は實に存在の價値なきことゝ考へます、此の信用も小さき虛言策略を惡と考へざる間は決して得べからざると私は確信致します、私のこの考は多數の同感を得るや否やは存じませんが、兎に角にこれが母より遺傳されし性格と存じます。

▲幼時の確信一生の運命を支配す

評議員 跡見花蹊

私は母より受けたる教訓として澤山は今記憶して居りませんが、唯一つ能く覺えて居ることがあります、夫れは私の生れた時は丁度家が少し傾きかゝつて居た時でありましたので、母親が私を側へ寢かせて置いて『これは成人しても他所へは遣らず家へ置いて家を興させねばならぬ』と常に話して居たのを聞いて、自分は家を再興すべき責任あるものだと思ひ込んだのが四歲の時でした、この確信が一生の運命を支配して今日に至つたのであります。

▲間接に受けたる自然の感化

評議員 下田歌子

私を教育しくれたるは祖母に候、而して嚴格なる祖母は我が父母にも亦非常に嚴格にして一言一行たりとも苟くも見て以て正しからずとする者あれば恰も年少の兒童を叱責し又教訓する如く矯正して一歩も借することを肯ぜられざりしかば母なる人は唯服從をこれ務め、毫も祖母の意に背かざらん事を希はれ候ありさまを見聞致し候ふ自然の感化を間接に受け候事少なからざりしを覺え申候。

▲儉約の秘決

評議員 有島幸子

我が母は平生質素を旨とし儉約を重んじたり、儉約の秘訣は零碎の始末をよくするに在り、金にても物にても、又時にても理はすべて同じことなり、要は目立たぬところに氣を配るにあり、例へば些末の事ながら、到來の包紙は必ず皺伸して不時の用意に備へたれば、一生の間紙といふものに不自由したることなし、是れ等の習慣は今尙我が身に傳はり、家を治むる守り本尊とぞなりけり。

▲人老て花に如ず

東京 浦月子

朝はとく起きよ、物事淸潔を旨として克く神につかへ、心身汚れに染むなかれ、高慢は身を誤る基なり、つゝまやかにして裁ち縫ひくりやの業に心せよ、人の爲に誠を盡し身を修むる者は、家を整ふ信念堅固なれとは、おのれ物心知りそめてより母の常に教へ給ひし御言葉、肝に銘し骨に徹りて忘れんとして忘られぬ迄になん、さるをさへ無き身の年はつもれど何をしいてゝ母を悅ばせしといふ事もなく、月花の變らぬかげに春秋を夢のやうにぞ打ち過ごしつる、思へばやさしき我身にも有哉、人老て花に如かずと唐人の謠ひけんも今更なりや。

▲理想の港

大阪 富永才子

博愛の心は素より、忍耐てふ事もまた女子として一日も忘るべからざるものなりとは、母上の常にのたまふ御言葉、誠や浮世の大海に乘りいでなば、時には浪あらく風すさまじき事もありなむ、されど此み教をだに心にしめて棹とりゆかば、船くつがへる憂もなく、竟には理想の港に到るらん、と思へば前途の光明はかがやきて、はるかに我航路を示すが如き心地してなん。

▲五箇條の教訓

臺灣 本田蝶子

われ十二三歲の頃、母上の紙に記して與へられたる御教訓は

一 規律を堅く守れ
一 其身の女たることを忘るゝ勿れ
一 他人の榮華を見て羨む勿れ
一 慈愛深かれ
一 分外の望みを懐く勿れ

と云ふ五箇條なり、吾れは常に是れを踊して母上の厚き御心に背かざらんと期すれど、甲斐なき身の兎もすれば潜上の念湧き出てゝ、背に汗する事の最多かり。

▲笠着てくらせ

岡山 猪木極子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

母より受けたる教訓

——（其二）——

▲最大の教訓は實踐躬行

評議員　棚橋絢子

母は婦人としてはまづ無口な方でよく働いた人でありました、子供は七人ありましたが皆人手をからずに自分で養育せられました、氣質は隨分しつかりして一寸女丈夫風でありました、さりとて父の至て嚴重であつたのを程よくとりなして呉られた事などは、非常に嬉しう且有難く感じました、家族は隨分大勢でありました故、下女と一處になつて御飯の世話から洗濯物、夏になると多くの蒲團の洗濯から冬着の下ごしらへ等をなし、又父は酒家であつたによつて一寸料理も出來、晩酌の肴は皆母の手製でありました、かく、實踐躬行して間斷がなかつたから、私は子供の時分に友達の母樣が一處になつて遊んで居らるゝのを見ると羨山敷思ひ、且子供心にも氣の毒で手傳でもしようと云ふ樣になつて、自然に働く事を覺えました、此習慣から維新の際困窮した折晝夜働く事の出來たのは、全く母の實踐躬行を以て仕こまれた御かげであつたと思へば、實に涙のこぼるゝ程有難く感じます、最も方今敎育の普及した時節と違ひ、其方には不完全な事でありました、けれど昔の婦人が一家を治むる資格は十分にあつたと思ひます、其多忙の中から折々人に頼まれて縫物などし、至て氣まめでありました、琴なども先々上手の方でした、かやうの風であつた故別に母よりしかられた事もなく、又是といふ敎訓も承はつた事もなかつたが、何分此實踐躬行が私にはどの位益になつたか知れません、猶思ひ出せばいくらも有ますけれど、側に仕へたのは十九年、別れてより最早四十餘年の久しきになりますから一朝一夕に思ひ出されませぬ故、ほんの記憶の片はしを記した斗りであります、當時文運の開け高尙なる位置に進んだ世から見ると、別に目立つた事はありませんが、餘り高尙に過て實踐躬行を疎略に思ふ人の爲には聊益なしともいはれませんかと思ひます。

▲一身を犠牲に供して子女を訓育す

評議員　佐方鎭子

予には五人の同胞ありき、予が母はその本務たる家政整理の任にあたるのみならず舅姑に事へ、夫を助け叔妹を撫育する等、これらのみにても其の務輕からざるに、加ふるに予等六人の養育を以てす、いかで容易のわざなるべき、されば十八歳にして予が父に嫁ぎしより、夙に起き夜半に寢ね、舅姑及び夫に對しては滿腔の熱情を以て之を敬愛し、叔妹に對する親切にして下婢下僕を遇するに慈愛を旨とし、常に陶淵明の其子を誡しめたる言を引きて予等姉妹を敎へられき、されば婢僕の如き皆よく懷き從ひて事故あるにあらざれば暇を乞ふもの今に至りて猶稀なり、また物縫ふ時は幼き同胞を傍に座せしめ、或は實例を引きて、或は寓言によりて忠孝慈善等の意を説述し、知らず〳〵のうちに善に導くことをつとめられき、而して母は常にいへり、己れは文字を知らざるが故に更に世を益すること能はず、又精神の樂みを受くること能はざるは誠に遺憾のことゝいふべし、さればせめては子女をして予がなす能はざりし所をなさしめ、聊かにても世に盡すところあらしめば、或は予が責を償ふことを得んと常に己れらはらからに書を讀み字を習ふことを奬め且つ勵まされき、さればわれらの幼時いまだ學校の設けなかりしにも係らず、今日書翰の往復に不自由を感ぜず、新聞紙を通讀してその意味を解するに苦しまざるものは、啻に父の敎によるのみならず、實に母の賜なり、當時の風、武士の妻は物見遊山等を以て善からぬことの如くいひなせしかば、母は之を嚴守して演劇等苟も男女群集する場所に趣くことなく、全く己が一身の樂みを犠牲に供して敢て恨むることなく躬行以て模範を示されたり、然れども予等の不省なる母の敎訓を全うする能はずして以て今日に至れるは、常に耻ぢ且つ恐れて已まざる所なり。

▲武士的敎育

評議員　仁尾繁子

私の幼い時は總領の外は女子と雖も皆男のやうに育てるのが土佐藩士の風俗でありました、それで私も十五歳までは頭も着物も皆男の子と同じで腰には大小を帶して居りましたが、母が嚴格な性質でありましたから、居眠り、寢姿等のことに就ては餘程嚴しくされました、又た名譽心と云ひますと、卑しい分子を含んで居るやうに聞えるでありましやうが、昔武士と云ふ名稱の内には非常な名譽の意味が含まれてあつたのであります、其れて武士の子であるから卑しいことをしてはならぬとか、武士に二言はない、一旦引受けたことは何所までも成し遂げねばならぬとか、常に母から云ひ聞かされました、夫れが能く心に染みて今日に至るも、私は倒れるほど苦しくとも、居睡りをしたこともありませねば、また俗に云ふ二枚の舌を使つたこともなく、爲さんと欲したことは何事でも成し遂げねば置きません、是れ皆な母の賜であります。

▲呉竹のなほきこゝろ

評議員　男爵夫人　千家俊子

呉竹のなほきこゝろを
　　こゝろにて
世に生ひたてと
　　母のをしへし

世は進めども了発れがたきは驕奢の風にもあるかな、わらはなほ幼かりし程、母わが將來をうれひ、何にまれ羨ましき心起らば、こを口吟さめよとて「上見れば及ばぬことのかぎりなし笠きてくらせ己がこゝろに」といふ歌をもてぞくれ〴〵も戒められける、されど世の無情なる嵐は、かよはき少女心のかひなく、ともすれば笠持つ紐のゆるびにつけいりて、なかなかに油斷もあらざりけり、あはれ人の心も得見分かぬ身をもて今の世の中を渡りゆかんには、此歌こそ實にわらはにとりては、須臾も忘るべからざるよき敎訓にぞありける。

▲思ひ出多し

兵庫　清原千代野

妾幼きより此上なき我まゝ者にて、父上扨は兄君にも持てあまし賜ひて、後には何事も笑ひて過し賜ひし程に、母上いみじう心にかけ給ひつゝ、常に妾に敎へらるゝには、我まゝは女の愼むべき事にてこそ、家に在る内こそつらしとも思はざらめ、他家に行かば左る事にては適うまじ、今よりたしなみ改めずやと、諄きまでさとし居ませしか、里に在る時は左のみとも思はで過せし事も、今となりては母上が御敎の思出らるゝふしのみ多く、世になき人の數に入りたまひし母上のおもかげ忍ばれてなん、實に慈愛深き親の敎ほど有難きものはなきぞかし。

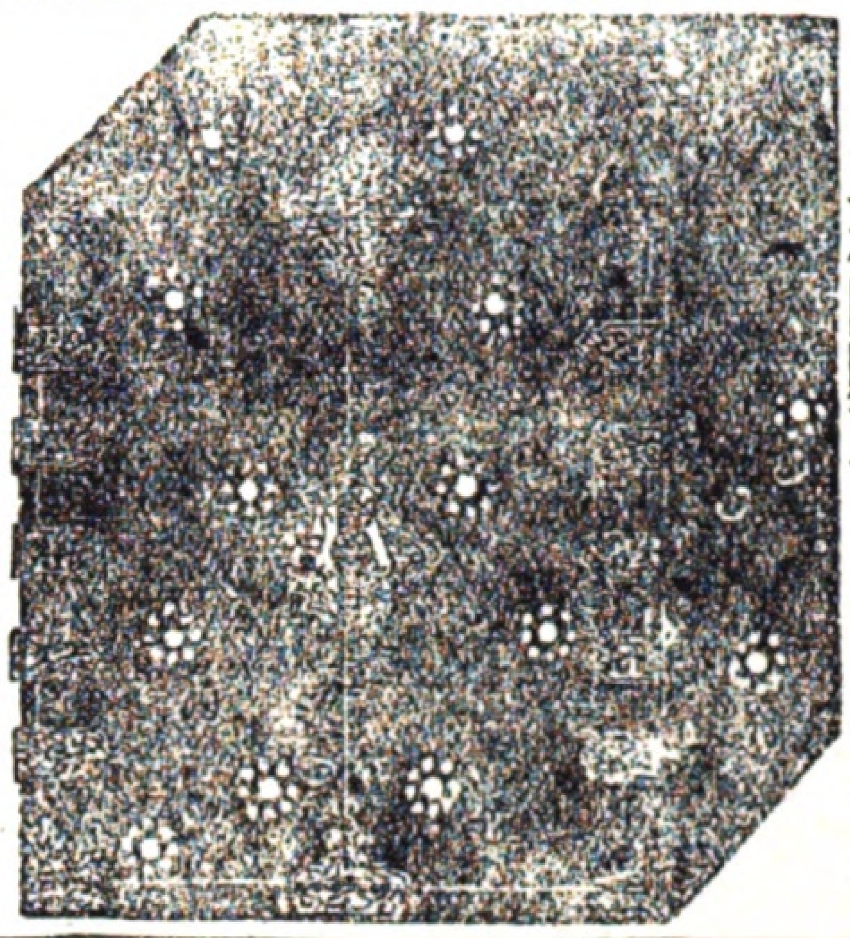
▲規律正しく

山梨　蘆澤雪子

母上の常々敎へ訓し給ふは、夜は早く寢ね朝は疾く起き、規律を正しく守りて何事にまれ、爲さんと欲したることは成し遂ぐるまで、勉め勵みて途中に心を挫く勿れと云ふにありき、されど愚かなる吾れの今に至りて何一つ母上の御心安んじ參らすほどの事もなし得ず、文の林も深く探らん便りなく、口惜しきこと最と多かり、殊更ら寂しき山里の住居、訪ひ來る人もあらざれば、同胞なき身は母上の御膝の下、針の運びに今日も暮らしつ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

高等簞笥長持類一式
正札附販賣
（簞笥目錄進呈）



數代老舖　害蟲豫防實施
東京市日本橋區小傳馬町一の三
長島屋　**長谷川簞笥店**
（電話浪花一四三五番）

商標　登錄

官用新案登錄　**金具附紐止袴**
弊店儀昔より袴專業にて各位の御引立を蒙り御厚禮申上候隨而今般御袴の紐を結ばずして止め至極御便利なる金具を新案仕候且つ右金具は高尚優美なる新意匠に御座候猶右金具たる各學校各位の御紋章及徽章等も御文に應じ調製仕候何卒御用向奉願上候
○御袴地○仕立袴
右品物は總て廉價に販賣候
芝區日蔭町通り
源助町十三番地
住吉屋袴店
犬飼吉兵衛
電話新橋二千六十五番

◎**女生徒募集**
●日本畫科 ●西洋畫科 ●刺繡科 ●彫塑科 ●蒔繪科 ●裁縫科 ●編物科 ●造花科
來る四月**新學期**開始●右の各科とも**入學**を許可す
志願者は至急申込あれ
本校には監督嚴重なる寄宿舍の設あり
東京市本鄉區弓町
女子美術學校
電話下谷二二一四

於第五回內國勸業博覽會賜貳等賞牌

商標

調製品概目
一御婚禮用簞笥　一同長持
一同鏡臺　一同針箱
一用簞笥　一洋服簞笥
一書籍箱　一各種箱類
其他御婚禮荷物附屬品各種精々入念調製
弊店製造販賣品の確實精巧なる夙に全國の首位を占む尙業務の勉強により汎く大方各位の御厚情に酬ひんとを期す何卒倍舊御愛顧の程偏に奉懇願候
東京市京橋區京橋水谷町五番地
武藏屋簞笥店
電話新橋二七六三番

正札附陳列場
西洋小間物　帽子各種　婦人用小間物
中久商店
東髮用具　內外化粧品　祝具文具
東京神田小川町通り　裏神保町一番地

御袴地、色種々あり
カシメヤ
洋織物一式　裁縫物一式　**商**
敷物　ツカダヤ
御申越次第見本呈す
東京本鄉湯島切通下
電話下谷一三一四番

しらが赤毛の人に告
定價小瓶一組五拾錢中瓶一組壹圓送料十錢
該液劑（媒染液揚染液）は獨逸國醫學博士ビース氏の新發明になり從前有ふれたる白毛染粉とは異り使用方は極簡易且僅々十分間に眞美黑色となり數月間不變化の功力を有し皮膚に無害なるは小店の保證する所白毛赤毛は御試用の上不思議の効能を知られよ
明細書希望者は郵劵二錢封入申込あれ
發賣元　東京市京橋本材木町□□□　岡田商店

美人ムスク石鹼

此全形ナキ物ハ假擬ナリ
美人ムスク白粉
東京市日本橋區新和泉町
輸入元　桑原花生堂

專賣特許美術罐入
シカゴみやげ
象印
はみがき

本舖　東京
安藤井筒堂

三
○春季用　有色友禪縫絞り柄**半ゑり帶揚類**
○**肩掛**　都花織ショール旭織ショール縮緬縫刺ショール類多
○男女方襦袢**袖**　長襦袢地　肩紗地　下締め類
有効受賞ゑり治形すゝめ形　紀念形御まげ入
電話新橋二〇二七　新橋竹川町十弐　**ゑり治**本店
電話本局九五二番　神田表神保町壹　**ゑり治**支店
新橋際博品館內階下ゑり治出店

東髮用トシテ
無比ノ良香油

東京本鄉三丁目
かねやす
電話下谷一三三六番

かすり
紺かすり各種
紡績絣。金城絣。
米澤絣。大島絣。
秩父絣縞とも
外縞物いろく

大[illegible]屋

列
製造販賣元祖
○絹綿**ハンカチーフ**
○和染舶來**風呂敷類**
○**タヲル、敷布**
尙御誂印入石版銅版寫眞入等應御好何程多數にても迅速調製上納仕候
東京市日本橋區元濱町
高橋政右衛門
（電話浪花九百拾八番）

中瓶壹本拾五錢

二八水は進歩せし化粧水の隨一なり
効能は世間已に定評あり
花王石鹼本舖
東京馬喰町
長瀨富郎製品

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

告白

吾が『愛國婦人』は創刊以來こゝに四星霜を經て、本日第壹百號を發刊するの盛運に會し候に付ては、聊か祝意を表する爲め、今回に限り短文、作歌、俳句最高點者に對し、輕少ながら左の品を贈呈仕り候

一　百字文範　一册
右短文「百」最高點者
東京淺草區馬道町七丁目　六郷公子氏へ

一　貴婦人自筆短册　二
右作歌「花間春月」最高點者
東京府豐多摩郡大久保村南百人町　浦月子氏へ

一　蝶　實物標本
右俳句「蝶」最高點者
兵庫縣朝來郡生野町　和田きさと子氏へ

尚ほ逐號投稿數增加致し候に付ては編輯上手數を要すること尠なからず候爲め、左の規定を堅く御守り被下度候やう申添へ候

一、原稿は明瞭に認められたき事
一、短文、和歌、俳句は夫れ〳〵別紙に認められたき事
一、和歌、俳句は相成るべくは葉書に認められたき事
一、一封筒又は一葉書中へ連名にて原稿を同居されぬやう致したき事
一、締切期日以後に投稿さるゝ方尠なからず、右は甚だ迷惑に存じ候まゝ、期日に後れざる樣御送附下されたき事

雜報

◉國賓殿下　英國より御來朝のコンノート殿下は日光等御遊覽の上去る十四日御歸國の途につかせられたり

◉癈兵院法　政府提出の同法は衆議院の委員會に於て第五條に修正を加へ可決せられ今期の議會には無論通過す可く其設立地は東京大阪小倉の三ヶ所なりと云ふ

◉小兒博覽會　東久世伯爵を會長に戴き來る五月三日より二周間上野公園に於てこども博覽會を開くよし此會の目的は小兒に關する古今東西のあらゆる製作品を蒐集してこれを公衆の縱覽に供し學校及び家庭の敎育上に資すると同時に子供に淸新なる娛樂を與ふるにありと云ふ

◉少年動物愛護會　動物虐待防止會の中よりして表題の如き會を設立し左の約束を發表したり

一、この會を少年動物愛護會といふ
一、この會は、少年少女の間に、博愛の心を養ひ、人道をおしひろめるために、動物をいぢめることを防ぐのを目的とする
一、この會は、演說會を開いたり、書物を著はしたり、懸賞文を募つたり、勸告をしたりして、目的を遂げるつもりである
一、事務所を假りに東京北豐島郡巢鴨町大字上駒込十九番地山縣宅に設く
一、この會の趣意を贊成して、自分でも行ひ、人にもすゝめやうとする人は、誰でも入會することができる
一、一般會員からは會費を取らぬ、維持會員と篤志家の寄附とで、會の費用を支へてゆくつもりである
一、この會の事務を扱ふために、維持會員の中から、隔月交代で、當番幹事若干名を置く
一、この會は、動物虐待防止會の別働隊であるけれども、事務や經濟は、全く獨立して取扱ふ
一、會の機關としては、當分動物虐待防止會の機關雜誌『あはれみ』に、每號二頁乃至四頁の附錄を添へて、それで必要な報告をする

尙同會は少年少女に會費を出さぬ爲めに維持會員を募れり其方法は年一圓を寄附する人を以て組織する都合なり

◉アリス孃の結婚　愈々二月十七日午後零時十四分大統領官邸に於て擧行せられたり式は僅に入分間にして濟み新郎新婦は自動車にて邸を出ずるや父君は最も熱心に白米を撒掛けたり同官邸に於て結婚式を擧げたる人は前後十二回なるよし新郎新婦は壯大なる邸宅を有するが何時かは現父君の官邸たる白亞館に入る日の到來する事を希望し居れりと云ふ

◉婦人選擧權運動　英國倫敦なる婦人選擧權論者たる婦人の一團は三月九日總理大臣の邸を包圍し會見を求めたるも許されず警官は之を解散せしめ且つ其三名を拘引したるが後說論の上放免せられたりと云ふ

◉波蘭婦人同盟會　彼得堡に於て露國內地に散居する波蘭の婦人を以て成る同盟會組織せられたり此婦人同盟會は政治上の意見に關しては成る可く各自の自由に委し最急務の問題として波蘭婦人の敎育の普及を圖るべしと云ふ

◉日本女子美術學校　芝公園に於て授業し來りし同校は今般本郷千駄木町に移轉し授業するよし

◉女子美術學校　本郷弓町なる同校は來る四月新學期を開始し日本畫科西洋畫科彫塑科蒔繪科編物科造花科刺繡科裁縫科の各科に入學を許すよし尙同校には監督嚴重なる寄宿舍もありと云ふ

◉跡見女學校　本會評議員跡見花蹊氏の敎育せらるゝ同校は基礎も固く沿革も古く多くの名媛才女を出し居れる學校なるが今回第三年級以下の生徒を募集す

◉女子文藝學舍　麴町區中六番町なる同校は島地默雷氏監督の許に成る學校なるが今般本願寺令女教會の人々も大に斡旋し規模を擴張し女生徒を募るよし

◉高等女子實修學校　本會の評議員たる山脇房子氏が設立者兼校長として經營せらるゝ同校は今般赤坂區に地所を撰定し新校舍を作り生徒を募集せるが同校の特色は校舍內に塾舍を設け實地的に裁縫割烹育兒看病家事管理等を習得せしむるにありと云ふ

◉明治女學校　巢鴨に在る同校は今回組織を變更し吳久美子氏校長となり前山口高等女學校長福邊龜太郞氏學監となり技藝に重きを置き敎育を爲すよし

◉帝國圖書館　上野に數万圓の費用と數年の日子とを費して壯大なる建築を爲したる帝國圖書館は今廿日愈々移轉式を擧行する筈なるが記者の實見せし處によれば其規模の大なる事他の敎育的設備に於ては嘗て見ざる處にして婦人閱覽室は特別席の一角に設かれ從來よりは倍數以上の閱覽人を收容し得べし上野の花の開くに先遊つて此公共的設備も一般の人に開放せられるゝ筈なれば建物を見る旁に閱覽に往くも又妙なる可し據所は音樂學校の隣りなり

季節向き新柄物漏れなく取揃へ店內一面に陳列致し置候間御來觀被成下候樣奉希上候
地方よりの御注文は御書面にて御申付被下度く即日小包郵便を以て御屆け可申上候尚ほ注文御案內書は御一報次第呈上可仕候

東京日本橋駿河町
三越吳服店

電話　本局
五二一五
一二一七
一七九三
一八五六
一八六〇
二二二二
三二七八

女子教育
文學士　下田次郎氏編輯
每月一回發行
一部金十五錢
神田神保町　明治書院

奥村刀自從軍紀念
婦人の慰問使
一部定價　金拾錢
▲奥村刀自は全國の婦人を代表して滿洲軍を慰問せり本書は其狀況を詳かにせり
▲奥村刀自は從軍中種々なる困難に打勝たれたり本書は刀自の凱旋を唄ふ者なり
▲奥村刀自は熱誠を捧げて至る處戰死者の忠魂を弔へり本書は其誠忠錄にひとし
▲奥村刀自は時に臨じては歌を讀まれ又俳句に巧みなり本書は文學的文字を集む
▲奥村刀自を軍に送りしは我が會員なり其活動の模樣を見るは又會員の義務なり
發行所　愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

陸軍省御用達

木杯銀杯 定價表

御入用之節ハ御達附可仕候

東京市日本橋區室町貳丁目

木屋本店

漆器蒔繪商 林九兵衞

電話本局 特一七一〇 九九七

最も愛すべき香料馥郁

さゞなみ石鹼

高評煉香油

カスガオイル（水油代用品）

紳士令孃貴婦人用として最も上流社會に歡迎せらる有名なる小間物化粧品店藥舖にて販賣す

發賣元 東京橘町 小川潮華園

各博覽會共進會賞牌受領

營業品目錄は御申越次第進呈

奥田屋商店

東京々橋南傳馬町三丁目

（電話本局四五二）

●夜具●蒲團類 綿ざぶとん

街鐵外濠線も小川町東明館の前に下車を乞ふ

諸官省御用

東京神田區表神保町

矢田商店

電話本局二千十八

市内無賃配達

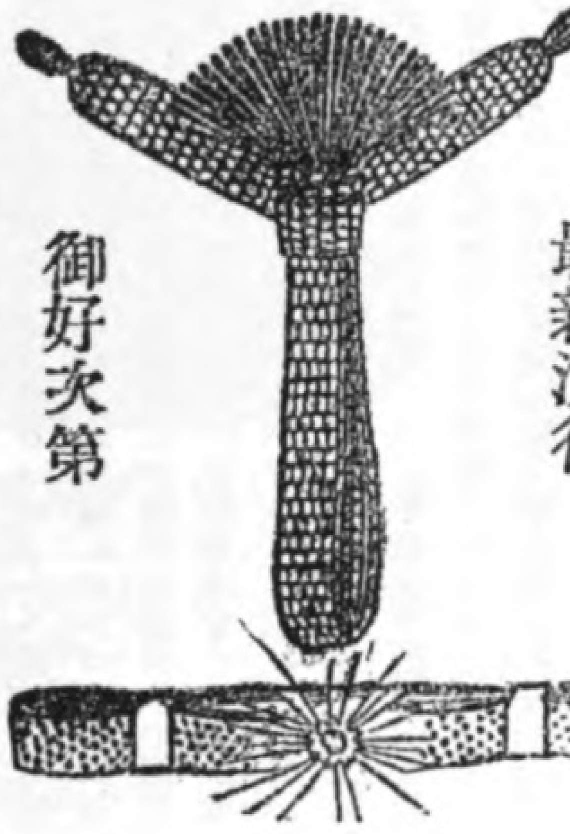
●綿質保險附●正札引なし●絹布仕立あり

最新流行

御進物用

絹糸 眞綿 組糸 一式

其他御編物用鶴印レース糸



御好次第

東京市京橋區南傳馬町京橋際

鶴岡助次郎支店

電話本局一七四二番

世界のしんぶん

◎珍しき饗應　此程米國にて巨大なるものゝみを育めたる食事ありたり主人は農業家にして材料は自分の品にて出來たるものゝみにて其獻立を聞くに第一、一個六百匁の馬鈴薯を始めとし一個一貫八百匁の玉葱、一貫の雛鳥、一個七百匁の蕪、一粒二百四十匁の玉蜀黍、又は一個百八十匁の林檎より造りたるパイ等なりしといふ、右の多量の食物を十二人の客に分ちたりといふ、

◎カナリヤ生育業（金絲鳥）　北米ウヰスコンシン州にてはノイベルトといふ夫婦のものありて盛に金絲鳥を育てつゝありと一年の產額一千羽にて中々利益ある職なり、左れどいろ／＼の點に困難あり忍耐もせねばならず又熟練を要するものにて他に類なき業なり、因に此の夫婦のものは此業に四十年間從事し居るといふ

◎最危險の職業　といふは製鹽場の釜の番人なりといふ、常に鹽の蒸氣に晒さるゝものは決してコレラ、天然痘、猩紅熱、又は流行性感冒に犯さるゝ事なしといふ

◎兵士の給料　中最も多きは合衆國にて一ケ月間に二十七圓なり他各國の兵士の受る給料はオーストリヤハンガリー國にて一ケ月間に一圓五十錢、フランスにて同じく三圓六十二錢、獨逸にて五圓二十錢、英國にて十五圓（日本は略す）、ロシヤは最も少くして僅かに二十五錢なりといふ

◎珍出度家庭　もあればあるものかな、或る家の三人兄弟は他の家の三人姉妹と結婚せり、こは英國ダーレンといふ處にてありし事なりとぞ、奇妙なるは此新夫婦は皆同齢にて（十九歳より二十八歳に至る）一同一時に祭壇の前に立ちて審問に答へたりといふ

◎造幣局の敷物　此程英國にて一枚の敷物を燒きたるに殘りの灰より黄金を得る事五千圓なりしといふ、

◎無害の銃彈　フランスパリ府のドヴイラー博士といふ人は此頃奇妙なる丸を發明したるが此の丸は人を傷けぬものなり、例へば兩人のもの數十歩を距てゝ相互に發射するに丸は衣服にあとをつけたるまゝ、彈れかへりして地に落るとぞ、

◎世界最長の鋼鐵綱　は此程英國グラスゴー市にて造られたり此鋼綱は全くつぎ目なくして同市の地下鐵道の車を引くに用ひられ長さ三里許にして太さ六寸ありて總體の量な壹万六千貫餘にあり此の綱にて同市を一重に取卷く事出來る程なりと、此の綱は地下鐵道にて回轉する事一時間に十五哩なりといふ

◎硝子の帽子　近來衣服に硝子を用ゆる事多くなりたる事なるが、イタリー國ヴエニス市の一商人は硝子にて女帽子を作る事を發明したり、帽子用の硝子切れは絹と同樣の色艶ありて水を恐れぬは最其長所とする處なり張り詰めたる硝子は汚れたる時に堅きブラシと水と石鹼とにて拂ふ時は全く清潔になるといふ色合もいろ／＼ありて白、綠、藤紫、石竹色、又は黄等にて近來大に流行せんとする摸樣なりといふ

◎ゴム水　は奇妙なる木にて隔日に皮を切り開きて水汁を取るに大抵二十年間は絶へず汁を出すといふ、又木の古くなりて一番多く切られたるものが最も上等の汁を出すといふ、日本の漆木も同樣なりとぞ

◎赤釦倶　南米メキシコ國の首府メキシコにては此の頃三百人餘の婦人―老人も若きも、結婚せし人も獨身の人もありしが胸に赤き釦をつけて一つの同盟を作りたりといふ、此の團體の目的は主として接吻（キッス）を禁ずるにありて、會員は公にも私にも決して接吻せぬ事を盟ひたるものにして、多く接吻の爲めに來る惡疾の傳染を防ぐが爲め起りたる同盟なりといふ結構なる團體といふべし

婦人画報

其二年第四號　三月一日發行　定價二十五錢　郵稅一錢五厘

▲畫報中の女王たる本誌三月の裝ひの如何に優美高尚なるかを見よ要目左の如し

▲東伏見宮及山階宮兩妃殿下最近の御肖像◎大山侯爵夫人と書齋◎新婚の貴婦人◎名譽の二才媛◎暹羅女學生と日本烈婦の遺跡◎前田侯爵家婚禮の結納品◎其他名家の室内裝飾◎著名の女學校狀況等三十種と刷込四十餘種

▲讀物六十頁には當代名家才媛の作を載せ錦上花を添ふ

▲東京 近事畫報社

新古文林

毎月一回一日發行　第二卷第四號　定價廿錢　郵稅二錢五厘

▲天下第一低廉にして面白き雜誌本誌は增々其特色を發揮す

▲小說には獨歩泡鳴吊花玉茗の諸氏及十返舍一九四六山人式亭三馬近松門左衞門曲亭馬琴關根默庵名篇及西洋古今の傑作 詞藻文苑時事系 懸賞披露和歌俳句新體詩及川柳

▲演藝には國賓歡迎劇あり其他社會欄大に振ふ

東京 近事畫報社

輕便なる實用品

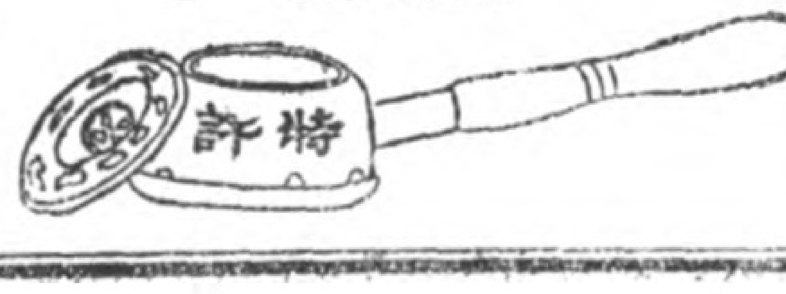
專賣特許 改良火熨斗　大九拾錢　中八拾五錢

▲本器の特色▼

木綿。絹。麻等の和服類は申すに及ばず洋服。東コート。フランネル等に使用して最も適するが故に和服を着用する方を始め洋服を着用する方は勿論裁縫師に至るまで必要の器具なり殊に本器は火の起り善良にして西洋形火熨斗の代用をなすが故に裁縫見習の方等には甚だ重寶なり

尚今回圖の如く優美の蓋を附け灰ほこりの立つを防ぎたる等完全無缺の發明實用品なり

製造發賣元　東京日本橋區本銀町三丁目　永瀨近藏



生徒募集　高等女子實修學校

第一學年 百名　第二學年 百名　家事科 若干名

◎本校ハ赤阪檜町四番地ニ校舍寄宿舍新築中來四月新學期ヨリ新校舍ニテ授業ス

◎本校ノ修業年限ハ家事科ヲ通ジテ五個年トシ高等女學校ノ程度ニ據ル◎家事科入學生ハ本校ノ本科卒業者或ハ之ト同等ノ學力アル者ニシテ年限ハ一ケ年トス

◎寄宿舍ハ總テ家族的トシ實地練習ニ便ナラシム◎入學申込者募集人員ニ超過スル時ハ謝絶スルヲ以テ志願者ハ速ニ申込ベシ◎學則入用ノ者ハ郵券二錢送附スベシ

校長 山脇房子

私立 高等女子實修學校

私立 女子音樂學校

生徒募集

◎來四月一日より新學期開設◎

◎規則入用者は郵券二錢送れ◎

東京神田錦町三丁目十一番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新荷到着

婦人洋服地並袴地帽子及小間物一式販賣仕候

其他男女洋服裁縫

東京市麴町區麴町貳丁目
八木屋號　大國市藏
電話番町七百四十二番

巴里の精粹　新荷着

◉貴婦人用春夏帽子
◉小兒用帽子及上衣
◉キャンバース數種
◉洋傘及手袋沓下類
◉敷布用タオル切地
◉精巧舶來人形各種
◉洋花。リボン。レース。流行コム櫛。香水。石鹼。白粉。其他西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與　三枝小賣店
電話新橋三九二七

高等香油
チエリーオーイル
紳士貴婦人令孃用

品は無色透明さらく〳〵として此の如く香氣は香水に異ならず故に紳士は勿論、貴婦人令孃方に目下大ゐに流行せる彼の束髮用としては非常に高評を博しつゝあり

定價入十五錢、四十五錢、廿五錢（郵税各十錢）
賣捌は全國有名なる小間物化粧品店にあり

東京日本橋區本町二丁目
發賣元　高橋初次郎
特電四一三番

カメリヤ洗粉
かめりや

本品は時代の要求により生れたる最新最良の洗粉也

カメリヤは一家傳來的なる陳腐の原料を用ひて製せるものと全く其質を異にし最も皮膚の衛生に適する材料を特に選し斯道大家の學理に基き極めて完全に配合せるものなり
皮膚を清潔に色を白くしきめを細かに艶をよくし肌を滑かならしむる點に於て他品に見る能はざる特長を有す
カメリヤは愛すべき香氣を有し一度之を用ゆれば花香芬々永く身邊に止り自ら爽快ならしむ
定價瓶入十二錢袋入五錢小袋入三錢

本舗　東京神田　小林富次郎
發賣元　ライオン齒磨

（ラクダ印）
麝香石鹼

ラクダ印麝香石鹼は高價なる麝香にスミレの香料を多量に含む故に化粧及洗面用せば其香氣は浴後の元より手拭、タオル、ハンカチーフ及衣服のゆかしさに至る迄移りて香いたし五日間は殆ど消えざる効力は前來品にも未だ見ざる一大特點を有す
○（定價大形壹個）（小形壹個）
（全國著名なる化粧小間物店にて發賣せり）
（類似品有「ラクダ印」と商標上に御注意）
東京本石町三丁目十八番地　化粧品問屋　井上太兵衛

婦人世界
第參號　三月三日刊　一冊十五錢郵税一錢　六冊郵税共九十錢
東京京橋區南紺屋町十二番地　實業之日本社

親切なる相談相手

▲口繪　一觀察（彩色石版）中澤弘光筆（其他）一花妻（彩色石版）最近時代裝（數枚）

◎結婚見合改良（村井弦齋）
◎嫁入道具改良……佐々いち子
◎一門九博士の家庭
◎家庭園藝……恩田農學士
◎女子教育追懷談……跡見花蹊
◎蒙古新歸朝談……河原操子
◎育兒（注意及質問應答）加藤ドクトル

◎余の要求する婦人……
　我四大要求……三輪田元道
　融通の利く女……下田次郎
　敲けば鳴る女……巖谷小波
◎大山侯爵夫人の面影
◎婦人の衛生……
◎春の料理
◎生花しをり……
◎流行の栞
▲懸賞募集の社告を見よ

◎繪手本（曲水宴）跡見花蹊（春雨）中澤弘光
◎雛の宵……河井醉茗
◎映畫……溝口白羊
◎小車……與謝野晶子
◎學校案内（女子大學）入學……峡水
◎男のなぐさみ……水裏
◎男子不可見記……星人
◎五行時論……高信峡水
◎小說　十三夜（風葉）冷熱記（柳浪）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

活動寫眞器械

●活動寫眞器械（最新式上等器械金百八十圓○甲號卷取付器械百卅圓○乙號器械六十五圓○幻燈取付用器械のみ金三十圓

●同フィルム各種　二月十九日コンノート殿下橫濱御上陸○同殿下御覽大名行列○第二回陸軍大歡迎會及同園遊會○各司令官の凱旋○東京大相撲○筑波艦進水式○旅順攻圍軍實地寫眞○安藝の宮島○耶馬溪等三百五十餘種

●幻燈及映畫　○アセチリン瓦斯幻燈廿二圓より四十二圓迄○改良五本燈幻燈卅圓○同四本燈廿圓より廿七圓迄○三本燈十圓其他數十種

右第十五版圖入定價表（百四十二ページ）は郵税四錢御送り次第進呈す

東京新橋詰　吉澤商店
（電話特新橋三百七十八番）

●平圓盤及蠟管　大聲發音器及レコード各種輸入
○圖入定價表は御報知次第進呈す

日露戰役 凱旋盃 （實用新案登錄五九九號）

◉此凱旋盃は世界に比類なく嶄新優雅なる美術品也今回農商務省に實用新案登錄御許可の一大光榮を蒙りしに付製造發賣を爲す◉凱旋盃は懸軍萬里二ケ年に亘り世界認めて強敵とせる露兵をして數百里外に驅逐し帝國を泰山の安きに置き外は列強を驚倒せしめ其英名千載の下に赫々たるべき軍人諸君名譽の紀念として必ず此凱旋盃を求められ之に依りて十二分の凱旋祝宴を張らるべし且つ爾後年々歳々出征中の名譽當日紀念として開かるべき祝宴の都度この盃に依り祝意を表せられ併て千載の將來まで此凱旋盃を秘藏して子孫の士氣を奬勵せられんことを希望す

◉凱旋盃は宴會席の卓上に數十を並列せば一樣整然として優雅美麗自ら大和魂の滿々たる風致を起し其趣味は實に喩ふるに者なく想像の外なり◉凱旋盃は附したる旗を隨意なる印に換ふることを得るが故に多人數集會の席には取其旗には客の姓名を記して席次を整頓せしむる便あるの外に其旗を拔き取り襟又は帽子に挿み相互の誰れなるを知らしむるの大利便あり◉外國人との宴席には互の國旗を交叉せば親密の情一層深かるべし▲結婚の大禮三々九度の盃には甚だ妙にして又新夫婦の紋章を記し交叉せば更に妙なり千載不朽の名譽ある戰死者の忠魂祭禮には是非この凱旋盃を供せられよ九泉の下忠魂笑ひ喜び之れを受くべし▲床の間の置物として一段の妙味あり▲和洋料理店ビヤホールには適當品なり▲一般の進物として妙なり▲軍人諸君は勿論貴顯紳士紳商其他外國人方より續々御注文日々如山▲御好次第特別製として貴金屬を以て調製すべし▲賓客に供ふるに凱旋盃の文字ある方を客に向け旗と總のある方を主人に面せしむべし

◎定價（並製一個金七拾五錢◎上等品一個金貳圓五拾錢）小包郵税東京市內◎金五錢市外◎金拾錢臺灣、清韓◎金三拾錢郵券代用一割增（五厘分にかぎる）着金順に逐次に發送す◎御賣御望の方へは御便利なる御相談すべし

追而　右並品は硝子製に金文字入◎上等品は眞鍮臺にニツケル鍍文字は彫刻◎外に磁製は（一個代金六拾五錢）送料同前但し外側は黑、瑠璃靑、茶及び白の四種にして內側はみな白地◎曲尺何れも高五寸經一寸八分にして美麗なる木製函に納れば永久の保存に堪ふ◎此外數種◎三寶は別物に付御注文に依り販賣も仕候

凱旋盃製造發賣元　東京市神田區小川町廿六番地　凱旋堂

新聞の新聞

◉時事新報　英國に於ては有數なる高貴の勳章を學者に與へて吝まぬは即ち學者の名譽を表彰して學問を奬勵するの趣意に出でたるもので文勳武功の間に差別を置て居らぬ然るに我國では軍人若しくは政治家でなくては得られぬ學者の中でも今の政治家に匹敵するの功績あるものは敢て少なくない學者の發見は啻に一國の男女のみならず世界の人類に無限の功績を與へるものであつて奬勵其宜しきを得れば世界に驚名を馳すの大家を出す事難からずと思ふ故に學者にも最高勳章を與ふ可し

◉每日新聞　政治に關する婦人の自由は衆議院の容るゝ處となり婦人界の爲めに一道の光明を得た是れ婦人解放運動の一現象と見る可きである歐洲近代に於ける婦人解放の運動は婦人の教育を男子と同等にして其天賦能力をして自由に發展せしむるを以て目的とし大學は自由聽講を許す事となり更に進んで社會上政治上婦人をして男子と同等の權利を享有せしめんとする運動を開始し婦人選擧權の問題起り此運動は男子の教導を俟たず婦人團體の獨立經營に出ず如斯は婦人の智的進步の熟恕あり內に蓄積する處あつて始めて行ふを得べし日本婦人も其主張の根本は婦人の心智を開拓して其社會的性情の涵養にあるを想ひかければならぬ

◉東京朝日新聞　二年兵役の主眼は經濟的なる陸軍擴張である陸軍國として世界に推さるゝ獨逸帝國が始めて之を行ひたる時の精神も又夫れに外ならぬ日露戰爭の實驗によれば三四ヶ月の教育訓練にてよく敵を破る故に日本にては常備軍を要せず只其の幹部あれば足る將校あれば足る下士あれば足る全國の壯丁は皆精兵なりとの感ありたり二年兵役制何か有らんである今日は兵を養ふよりも寧ろ將校をよく教育するにあるなり

◉萬朝報　非鐵道國有論を主張して數十回の論文を掲げたり其要旨によれば（一）政府の本分は國利民福を計るにあり然るに政治作用を飛超て民業と競爭する如きは不可なり（二）社會の進步は國民の獨立自營にあり然るに國有は此精神を失ふに至る（三）選擧權を有する人を尠くし立憲政治の基礎を危くす（四）政治上の自由と同じく產業上の自由を人民に與へざる可からず專賣權を國權として應用するは不可なり（五）財政上からも不可なり財政の基礎を動搖せしむ（六）國庫收入の財源に濫用する恐がある（七）公債募集の餘地をなくす（八）鐵道發達史上にも故障生ず（九）株券が外人の手に渡ると云ふは杞憂なり（十）軍事上國有に移すの必要なし（十一）獨占業を民間に營ましむるとて國有の理由にならず

◉讀賣新聞　鐵道國有論に贊成を表して曰く鐵道の如き獨占的事業は國有に移すが當然である社會の進步は競爭時代を經過して漸次共同の時代に向はんとして居る個人の事業は株式事業となり株式事業は國民全體の事業となるのは社會自然の趨勢である今日の民業は資本家と云へる國民一部の事業であつて國民全體の事業でない故に此資本家制度を飛越へて國民全體として之を經營するに必かず云々と論ぜり

諸大家贊助並に執筆

▲月二回一部金五錢半年六十錢一年金壹圓廿錢

◎新聞雜誌の賛評

曰く、優しき文藝の趣味と溫かき宗教の信念とを基礎となし、生活に趣味あらしめ、人生に信仰あらしめんことを主義となす、坪內博士、重野博士、大槻博士、前田博士、村上博士、村井弦齋、大內青巒、片山博士其他知名諸士の有益趣味の記事を滿載せり思潮の警鐘にして、文字の清新なる家庭新聞として上乘の面目を發起せり。

曰く、現今家庭の種類多しと云へとも、佛教趣味を說く者至て少なし世人の風に憾みとする所也。然るに本誌の出づるありて同信の士女を滿足せしめ、佛陀慈光の下に溫かき國家を建てしめ趣味ある生活に導かんとす吾人は多大の同情を以て本誌の發達を祈る。

◎此種の贊評都下數十の新聞雜誌に傳へらる。

新版 丙午の迷信

每日新聞社長　島田三郎先生序話
家庭新聞記者　菊地松堂君編

定價十三錢　郵税二錢

正月早々から閑院宮邸から火事が出る赤阪で燒死がある、ソレ火事だソレ地震だとナンデモ惡いことは皆丙午たからと云ふ迷信家はますます恐れて大騷ぎをする、まことにけしからぬ次第である、「ひのえうま」の女は亭主を喰ふ、また身代をつぶすなど、當方もないことを言ひ觸らし、爲めに折角の良緣も中止沙汰とはいよいよ以て不都合千万のことである本書は丙午に就いて詳しく其の由來を取調べて其の信ずるに足らぬ無根の俗說、全く迷信であるよを言文一致體に分り易きよふに記したもの也。時節柄一度は見て置くべき參考書なり

發賣所　東京本郷四丁目五　文明堂
東京堂。北隆館。東海堂其他全國書店

FORMALIN SOAP ホルマリン石鹼

◉殺菌防腐皮膚病一切によろし
◉養蠶家手洗消毒に最もよろし

消毒專用　化粧用　洗濯用

本舖　藥種問屋　圓城商廛
東京市日本橋區本町三丁目七番地
電話本局一四四三番

特別大販賣
東京本銀町三ノ十三
仲德商店

消化新藥

工學博士高峰讓吉氏に由て發見せられたる有名なる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる

摸造品數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意

本劑に關する說明書は御申越次第贈呈す

東京市南茅場町二番地　三共商店藥品部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●洋酒●鑵詰●洋食料品●食器具類

最上清酒

●世界長は播州灘御影小網與八郎氏の吟醸にして數十年來江湖の高評を博し尚殺菌しあれば腐敗の憂ひ毫もなく衛生上無害有効にして且又壜詰なれば日々に用量を定めて飲用せらるゝを得て攝生家及規律を尊ばるゝ貴婦人間に最も重寶とせらるゝ處なり

壜詰　一升入四合入二合入の三種入
取次販賣所全國重なる洋酒鑵詰商店及酒店

發賣元　東京日本橋區てりふり町通堀江町四
高橋商店
電話浪花千五百六十一番

神戸高等商業學校教授　東奭五郎著

新案家計簿記

洋裝美麗全壹册　正價金七拾錢　郵税金八錢

新刊

●本書は著者の家庭に現に實行しつゝあり　今の家計簿記を説く者動もすれば高尚なる理論に陥りて實際に起る日常問題と背馳する憾なきもの殆ど稀なり本書はその通弊を救はんか爲に頗る意を刻し新案せるものにして前編には專ら獨身の處世中に要する會計の記録法を説き後編には家族の生計中に起る財政の整理記録法を載せ何人にも通讀自習に適切ならしむるやう平易明瞭に記述せり又本書を以て敎科用書に充てんか前編は年少者に後編は稍年長者に課さば多數の時間を要せずして家計簿記を學習せしむるの便あり

宇野彌太郎・渡邊鎌吉共著　●家庭西洋料理　全壹册　洋裝美術的製本　正價金九十五錢　郵税金八錢

發行所　東京日本橋區通一丁目　大倉書店

於聖路易萬國博覽會名譽金牌受領

九谷燒

優雅珍品豐富。高等に進物用各種御注文は御好次第一週間以內に出來仕候

京橋區東仲通り南鞘町廿九番地
谷口支店

●色白く艶をだす
松澤ホーサン石鹸（大形一個廿錢　小形一個十錢）
●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意
●當市內は勿論到る所賣藥小間物化粧品店に於て販賣す

東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖
松澤常吉

雜誌の新聞

◉女子の獨立に就て　近來獨立を主張する事が流行するやうであるが女子の獨立とは如何なる事かと云ふに女子が婚嫁をなさず一種の職業を求め獨立して社會に活動しやうと云ふのである如斯は女子の天職を辨へざるもので左の三點より否認せねばならぬ（一）天則に反し生理に反す（二）女子の性能發展を害す（三）國家の組織を防害す女子は必ず婚嫁すべき常道天則である只其例外として獨立を認む可き場合は（一）不具癈疾の者（二）遺傳性の病あるもの（三）結婚する爲に重大の目的を果す能はざる者の（四）止むを得ざる事情の爲め婚期を失はし者（五）一度婚嫁せしもの等に限るのである（女鑑　松平伯爵）

◉子供の生涯中あぶなき時　（一）は生れてから五歲までの間殊に始めの一年間である凡そ物は僅かに變化がある程あぶない時はない子供が母の胎內から生れる時ほど烈しい變化をする事はない生涯に二度とない急變化を來す時であるから誠にあぶない（二）は乳齒のぬけかはる頃から二三年の間である此頃は食物をかみ碎く大切の機關が拔けかはるのでありますから其前後は消化が惡しく心にもからだにも影響する（三）は青年期に入る時即ち男は男らしく女は女らしくなる時の前後であります此三時期が最も母親の注意を要する時であります（日本の家庭　高島平三郎氏）

◉幼兒の時より宗敎心を養成する可否　子供の時からでも宗敎心を養ふ樣に骨を折れば矢張り浸み込んで成長の後には信仰の考へが浮んで來ましやう老人が每晚佛壇の前でお經を讀む時子供にもおつとめをさせると云ふのも惡い事はないが強てやらせるのはよろしくない獨乙の敎育者は矢張り子供の時から宗敎を敎へ込むのはよろしくないと云ふて居る（明治の家庭　元良博士）

◉日曜日の用ひ方　日曜日に適當な休みを取らないとそれが直きに他の六日の間の仕事の上に現はれて參ります十分に休養をしなかつたものは十分に働く元氣がない精神上の修養を怠つたものは必ず健全な希望に乏しいものになる故に土曜日を聖日と定め精神修養の時間となし日曜日を娯樂日とするがよろしい西洋では日曜の外に今一日の全休日があるのが通例である日本でも水曜を全く休む事としたらよかろふ（家庭の友　向軍治氏）

◉女子の農業敎育　農家に生れたる女子は多く農家の主婦となるものであるが農業に對する智識なく趣味なきが爲に良人は進步的思想を以て農事の改良を計らんとするも妻は舊慣を守つるを僻ず却て良人をして改良の斷行に躊躇せしめ又良人を助け小作人の慰撫を圖るとをせず反て都會的趣味を注入せんとするあり農業の發達を沮碍す依て高等小學に於て農業の概念を吹き込み女子に適する養蠶養蠶養蜂酪農園藝等の學理を敎ゆるを可とす（農業雜誌九百四十二號）

◉一夫一婦の請願　現行の法律にては妻の不義は之を離するも夫の不義は之を不問に附し妻の姦通は離婚の理由と認むるも夫の不義は一般に離婚の理由とはならないのであります妻の離婚と同時に夫の不義も罰し之を離婚の理由と認むるが當然であります我等婦風會は微力なりと雖も爰に着眼し第一議會以來十有七年々歲々同志の連印を得て議會に請願し來り本年も亦例年の如く八百二十名の連署を以て提出しました其運命は未定でありますも假令採用されても之を法律案となすには我等に大なる準備を要します婦人たるもの寢て居たり轉んで居たりしてはいけません大に奮起して社會の輿論に訴へ婦人の勢力を張り人道問題の爲に一道の光明を點するの覺悟を要します（婦人新報百六十號社說）

●會員大募集＝三月三十日迄の申込に限り入會金全免す

新學期開始

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の敎育を完全に正則に授けます
▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ敎育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です
▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都會一ヶ月の遊學費で優に全期を終げる事ができます

大日本淑女學會

高等女學校程度　講義錄發行

批評一斑
▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
▲每日新聞評　米國の通信敎授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
▲二六新聞評　高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
▲日々新聞評　講義はすべて平易と親切とを旨めて毫も難解の憂なきに似たり
▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一新城を拓き得可し
▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也
上揭の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼　端書にて申込あれば直に郵送す可し

●東京神田南甲賀町
大日本淑女學會
電話本局三千四番

ムスク香水（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳馥の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目　ホーサン石鹸本舖
本舖　松澤常吉
（電話本局四百四拾五番）

染織競技會

●四月一日より
◎染織競技會相催し并に
◎よせきれ見切反物大賣出し
仕候間續々御來店奉願上候

東京日本橋
白木屋　吳服洋服店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

洗用ワッセル

◎此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

◎用法は湯一升に二匁（小杯へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに搾き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシヤツの如きは（拾貳号）入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗う用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

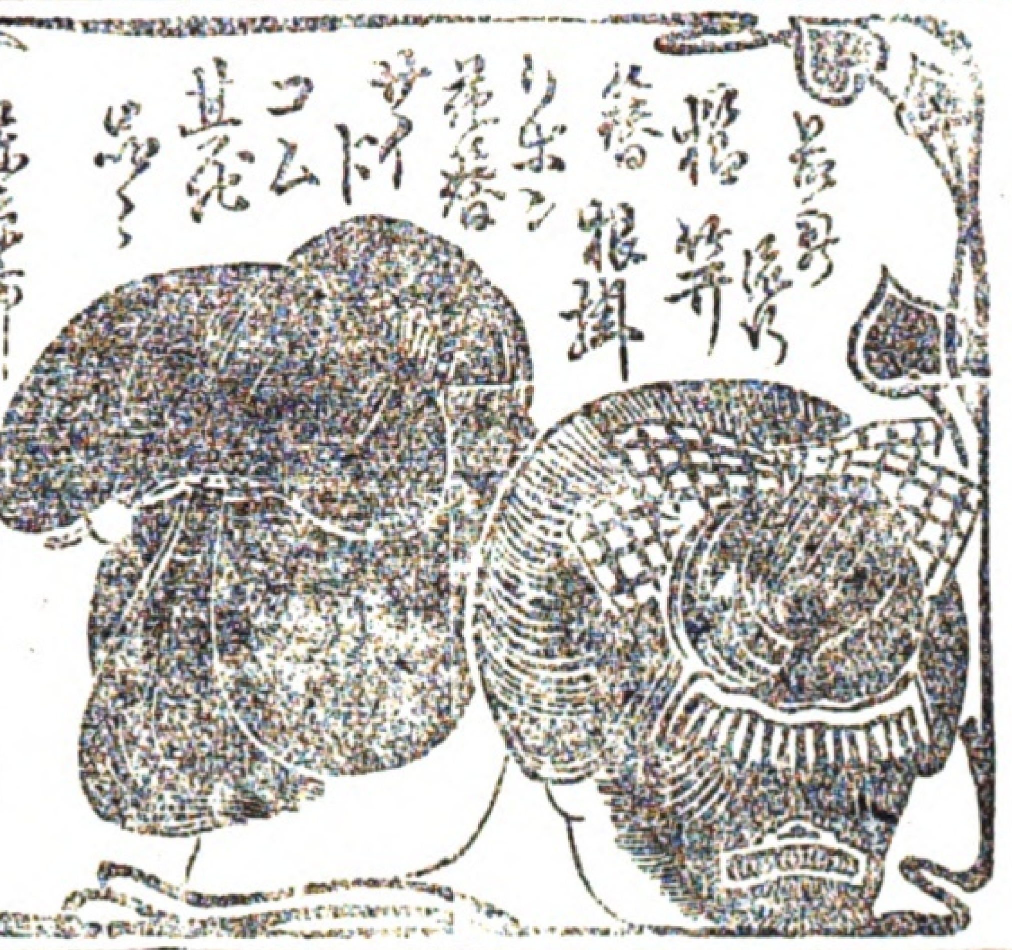
定價　拾貳号入　金拾五錢　六号入　金八錢　袋入二錢

芳香御肌洗粉ワッセル

◎此肌洗粉ワッセルを當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類方加味し製造せしものなれば朝夕御使用のしは香氣馥郁として肌持ち晴々す又おしろいたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上　金七拾五錢　普通　五拾錢　參拾錢　拾七錢
金貳拾錢　六錢　三錢

東京市京橋區三十間堀三丁目　電話新橋一七二三
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會



最新流行 櫛笄 簪根掛 リボン 襟飾 ドイツ ゴム 其他 品々
東京市神田區須田町十番地
小間物商 三ツ井屋 電話本局二〇七六番
支店（新橋帝國博品館內　神田神保町東明館內）

煉香油 パール

貴婦人用　紳士用

歐米化粧品輸入商
東京濱町一丁目　電話浪花一一〇
平尾方店
香油ゴールドルイオル發賣元

日本第一の大勸業場（本場の特色）

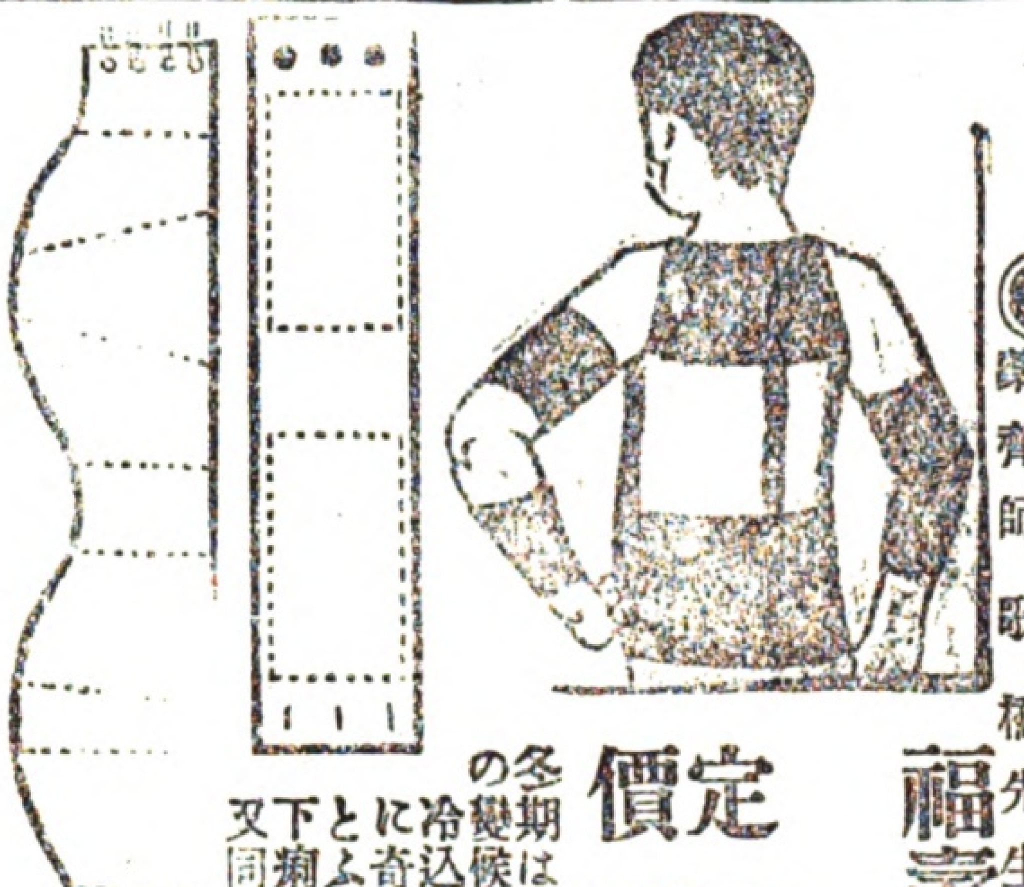
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃で配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角
電話新橋（一六五二・二三六二）

帝國博品館

◎ドクトル木村順吉先生
藥劑師歌橋先生
合議發明◎



福壽帶一名くすりをび
電氣帶代用藥帶

定價
（一號藥囊五十錢　帶付七十五錢）（二號藥囊六十五錢　大形帶付九十錢）
（三號藥囊二個付　帶付壹圓五十錢）（四號藥囊二個入　特製貳圓）
（腹掛形九十錢）美麗箱入となす

冬期は防寒保溫感冒の豫防に此上なく夏期又は四季の變候には腹部腰部に此の「くすりはらおび」を用ひ冷込を防ぎ赤痢、腸胃カタール、腹痛下痢の豫防に奇効あり急に腹痛又は下痢の場合は此の藥囊をとふ火に溫め直に局部に押！當ておき暫時にして下痢痛みを止め治癒す「リウマチ」等にて痛むとき又同じ

代價安くして有効一年間妊婦産婦旅行家病人等へ進物に適す別にくわしき刷物あり御申越次第送る

東京市日本橋區駿河町三井銀行前
內外藥品器械
處方調劑專門
輔仁堂

大日本女學會

會員募集

◎本會は十年來女學の通信教授に任じ本會の敎を受けし者既に三萬二千人に及べり

◎本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に奉戴し鍋島侯爵夫人會長として會務を監督す

◎本會が十年來女子教育に盡せる事　皇后陛下の御聞に達し特に御歌を賜はりたり

◎本會の講義錄に高等科と簡易科とあり高等科は月謝四十錢簡易科は同二十錢なり

◎今度新學期を開き會員を募集す淑女たち入會申込あれかし

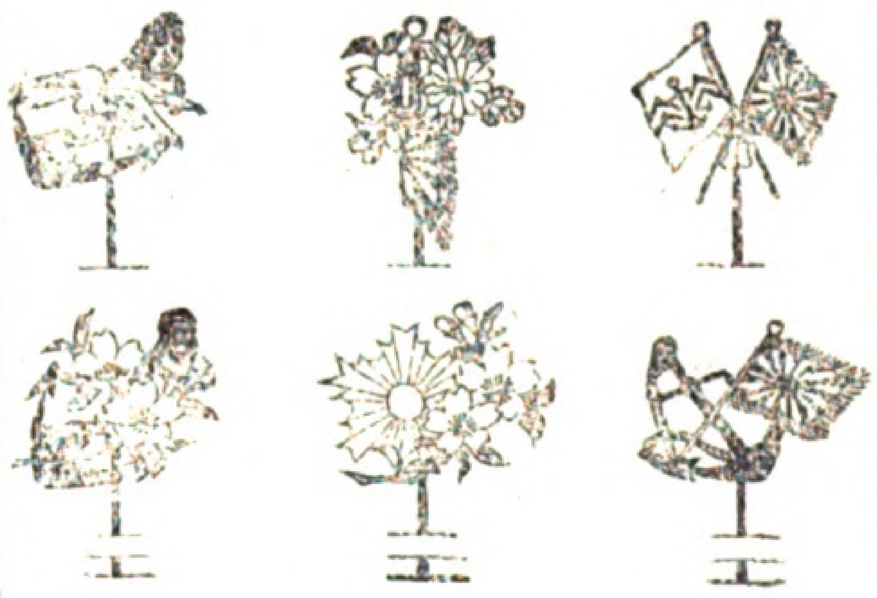
◎詳細なる會則希望者はハガキにて請求あれ

東京市麴町區下二番町三十七番地
大日本女學會　電話番町一三三〇

各女學校御用
附屬品並に造花器械類一式
東京市日本橋區横山町一ノ十六
天野卯兵衛
（電話浪花一六四三番）

營業目錄御入用なれば送圖
婦人見てと御記入
御申越下され度候

戰勝紀念ピン



銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價（純銀製　一個　金三十五錢以上）
（餘は御好み次第迅速調製可仕候）

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達
東京市下谷區池の端仲町
玉寶堂
電話下谷一二四四番　特九六五番

東京市麹町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局（三、三〇〇番　四一番　（特）三七番　一〇二番）
一定期預金　年五分
一當座預金　日步七厘
一特別當座預金　日步一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘
當座預金　百圓に付日步　八厘
特別當座預金　同日步　壹錢壹厘

生徒募集（毎月入學を許す）
◎和洋裁縫各科◎洋服裁縫各科◎刺繍、編物、造花、點茶、活花等の隨意科
本校は毎年八百有餘名の卒業生を出し女子師範學校高等女學校及各種女學校の教員各方面に充てり又毎年文部省裁縫科檢定試驗及第者は其三分の二以上を占む
東京市麹町區九段中坂上
和洋裁縫女學校

スコット乳劑
小兒ノ發育期ニ用ユレハ其效驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ
説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳劑部ヘ御申込アレ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

◎牛豚肉販賣及西洋料理◎
◎品質佳良の肉類廉價に販賣候
◎配達は迅速に且つ正確に致候
◎滋養と風味の西洋料理調製候
◎西洋料理出前は格別相働き候
◎米店は精撰の白米廉價販賣候
◎御注文は電話又は葉書で願候
小石川表町廿二番地　電話番町六五九　**西川本店**
本郷區駒込東片町五番地　電話下谷二三七一　**西川支店**
小石川表町十一番地　電話番町一四六一　**西川洋食店**
小石川表町十八番地　米穀商　**西川嘉門**

最上醬油　キハク印
於堊路易博覽會　名譽大賞牌受領
釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門　電信略號（キハク）又（ハク）
キハク印
醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます
東京支店　日本橋區小綱町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七番

北辰社牛乳は最も滋養に富む
明治十九年二月十四日一等褒賞を受く

北辰社精製のバタは味佳良
明治十九年三月十四日一等鑑定狀を受く

親王之袴

東京日本橋區長谷川町　電話浪花二八五九番
卸部美濃磯本店
小賣部
本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店　電話下谷一四一五番
日本橋區佐内町　美濃磯佐内町支店
神田區小川町　美濃磯神田支店
深川高ばし際　美濃磯支店
芝區新櫻田町　小田商店
牛込區神樂町一丁目　伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

醫院案内

◎**產科婦人科**
芝區明舟町十九番地（電話新橋三三一四）
櫻井醫院

內科小兒科に特**吸呼器病**
麹町はやぶさ町二十八番地
ドクトル **川瀨元九郎**
電話番町八二二番

婦人科產科榊病院
院長　醫學博士　榊順次郎
副院長　醫學士　久保德太郎
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

院長　醫學士　鳥山南壽次郎
鳥山內科院
午前診察　午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

小兒病診療
宅診午前　往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士 **內田愼太郎**
◎電話下谷七一八番

◎**產科婦人科**
◎京橋區南鍋町一の一角
◎朝八時より正午　◎夕五時より八時
醫學士 **伊庭秀榮**

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
內科病特に腦脊髓神經疾患
峰內科醫院
院長ドクトルメチーネ **峰秀世**

山口眼科病院
東京神田錦町參丁目電本七一五
診察午前午後　入院隨時
院長　醫學士　山口秀高

內科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診　午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七十番

○來四月二日より第二十四回產科婦人科學講習開始す志望の醫士は申込まるべし
東京日本橋區濱町三丁目七番地
產科婦人科　楠田病院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田千代田町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸堂
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舎
京橋區宗十郎町 正路喜社
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

村井弦齋著　四十二版

増補註釋 食道樂

春の巻
夏の巻
秋の巻
冬の巻

合本 全一冊

定價金二圓
郵税金十五錢
臺灣清韓金卅五錢

發行 東京市麹町區有樂町 報知社出版部
發賣 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店

村井弦齋著　十三版

實地經驗 台所重寶記

全一冊

定價金八十錢　郵税金十錢　臺灣清韓金三十錢

新に世界の一等國に列したる國民將來發展の基礎は第一臺所の改良にあり

發行 東京市麹町區有樂町 報知社出版部
發賣 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店

宮内省出仕 赤堀吉松
日本女子大學教授 赤堀峯吉
東京女學館教授 赤堀菊子
共著

家庭應用 総菜五百種

全一冊

定價金七十五錢　郵税金十錢

實地的に種類の多く、平易懇切の點に於て本書の右に出づるものなし

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麹町區有樂町 報知社出版部

明治三十八年 日本高等小學校 教科書

英國某憂國者著　日本某名士譯

英國衰亡論

全一冊

定價金二十五錢　郵税金四錢

△英國の衰亡論か將又日本の衰亡論か
△空前の奇書、絶後の教訓

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麹町區有樂町 報知社出版部

醫學博士 瀬川昌耆著　報知新聞家庭記者 天野誠齋編

増補訂正 實驗上の育兒

上巻

定價金六十錢　郵税金十錢

家庭を作る人、家庭を作らんとする人の必讀不可缺書なり

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麹町區有樂町 報知社出版部

東京狩野病院長狩野謙吾述

神經衰弱の豫防法

全一冊

定價金四十五錢　郵税金六錢

神經衰弱は文明の病なり、男女を問はず老若を論ぜず文明國民の大福音り

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麹町區有樂町 報知社出版部

新橋堂編輯部編纂

日露陸海軍公報集

第一巻 自明治三十七年二月八日 至同年七月六日
第二巻 自同年七月七日 至同年十二月十日
第三巻 自同年五月廿六日 至同三十八年一月十一日（旅順）
第四巻 自同年一月初 至同年五月末
第五巻 自同年六月初 至平和克復

各一冊
定價卅錢
郵税六錢

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麹町區有樂町 報知社出版部

喜内芳樹編

英文 日露戰爭公報集

第壹巻

定價金七十錢　郵税金六錢

△英語作文、和文英譯の最好參考書
△外人に適する最良の贈品

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麹町區有樂町 報知社出版部

新橋堂編輯部編纂

開戰媾和 日露交渉顛末

全一冊

定價金四十錢　郵税金六錢

開戰の原因と結果を最も正確に知る唯一の良書なり

發行 東京市銀座大通新橋際 新橋堂書店
發賣 東京市麹町區有樂町 報知社出版部

明治三十九年三月二十日發行（毎月五日二十日二回）

發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 手島益雄　發行所 愛國婦人會内

明治三十九年三月廿日發行（每月二回五日廿日）　明治三十五年三月廿七日（第三種郵便物認可）

名譽會員伏見若宮妃殿下
名譽會員梨本宮妃殿下
名譽會員山階宮妃殿下

總裁閑院宮妃殿下

名譽會員久邇宮妃殿下
名譽會員東伏見宮妃殿下
名譽會員賀陽宮妃殿下

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所　印刷所　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN